「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

http://www.sony.co.jp/faq/bravia/

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

ホームページ ● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

「ソニードライブ」は、ソニーの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「良くあるご質問」「修理情報」「ショッピング情報」は、ホームページをご活用ください。

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル*………………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は*……… 03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX……………………………… 0466-31-2595

受付時間：月～金曜日 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00

*お電話は自動音声応答にてお受けし，内容に応じて専門の相談員が対応します。
はじめにご用件を下記より、次に音声案内にそって商品カテゴリーの番号を押してください。
選択番号は変更になることがありますので、ご容赦願います。
1：修理受付
2：使用方法や故障と思われるご相談
3：お買物相談
4：その他のご相談

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

この説明書は、古紙70％以上の再生紙を使用しています。

Printed in Japan

SONY

2-684-434-**04**(1)

BRAVIA

設置・接続編

別冊の「操作・困ったときは編」もご覧ください。

液晶デジタルテレビ 取扱説明書

KDL-20S2000　KDL-32S2000
KDL-23S2000　KDL-40S2000
KDL-26S2000　KDL-46S2000

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「操作・困ったときは編」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次　設置・接続編

リモコン操作の説明や困ったときは、別冊の「操作・困ったときは編」をご覧ください。

⚠警告 安全のために

ご使用の前に、この取扱説明書「設置・接続編」と「操作・困ったときは編」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

テレビは正しく使用すれば、事故が起きないように、安全には充分配慮して設計されています。しかし、内部には電圧の高い部分があるので、間違った使いかたをすると、火災などにより死亡など人身事故になることがあり、危険です。事故を防ぐために次の事を必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この冊子の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

お買い上げ時とその後1年に1度は「安全点検チェックリスト」に従って点検してください。
1年に1度は内部の掃除を、5年に1度は点検をお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。（有料）
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。湿気の多くなる梅雨期の前に掃除を行うと、より効果的です。
また、本機の通風孔付近にほこりが付着するときがありますが、付着がひどい場合、故障の原因となることがあります。掃除機などで1か月に1度、ほこりを吸い取ることをおすすめします。

故障したら使わない

すぐにお買い上げ店、またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たり、こげくさいにおいがしたら
- テレビを見ているときや、スタンバイ状態（画面が消えていて、本体のスタンバイランプが赤色に点灯中）のときに、テレビ内部から異常な音がしたら
- 内部に水などが入ったら
- 内部に異物が入ったら
- テレビを落としたり、キャビネットを破損したりしたときは

❶電源を切る
❷電源プラグをコンセントから抜く
❸お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

風呂・シャワー室での使用禁止

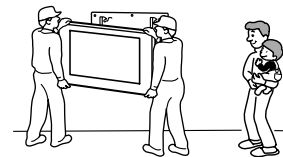
接触禁止

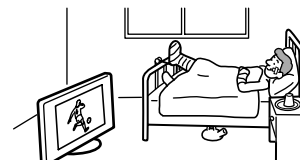
行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

下記の注意を守らないと**火災・感電・破裂**により**死亡**や**大けが**などの人身事故が生じます。

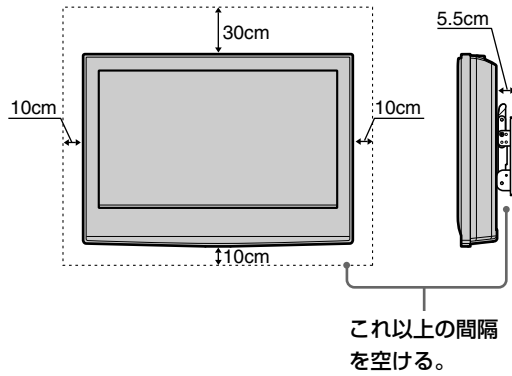
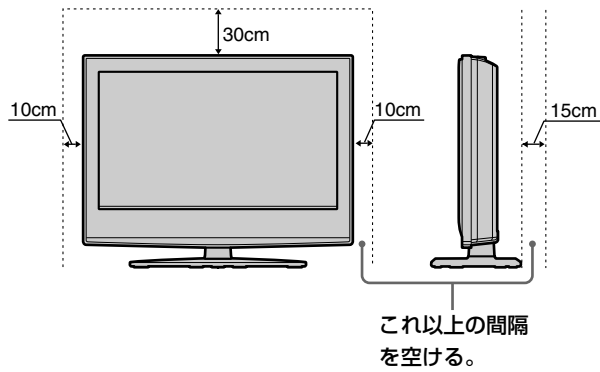
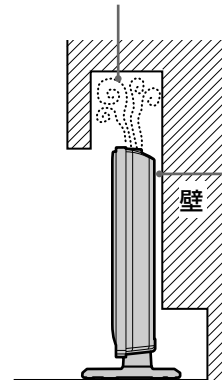
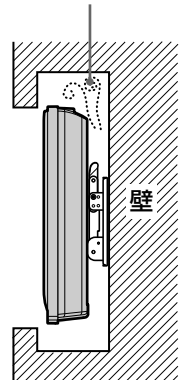
壁に取り付ける場合は、必ず専用の壁掛けユニットを使用し、専門の業者に取り付けてもらう
また、設置の時は設置関係者以外近づかない

専門業者以外の人が取り付けたり、壁への取り付けが不適切だと、本機が落下するなどして、打撲や骨折など大けがの原因となることがあります。

本機を医療機関に設置しない

医療機器の誤動作の原因となることがあります。

下記の注意を守らないと**火災・感電**により
死亡や**大けが**の原因となります。

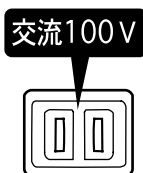
周囲に間隔を空ける

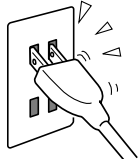
周囲に間隔を空けないで設置すると、通風孔がふさがり熱が内部にこもり、火災や故障の原因となります。

壁に取り付けるとき

スタンドを使用するとき

下記の注意を守らないと**火災・感電**により
死亡や**大けが**の原因となります。

電源（コード、プラグ）

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100V（50/60Hz）以外では使用しない

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱により、火災の原因となります。
海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

ゆるいコンセントに接続しない

電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因となることがあります。電気工事店にコンセントの交換をご依頼ください。

電源プラグをつなぐのは、他機器との接続が終わってから

コンセントに差したまま他機器と接続したりすると、感電の原因になることがあります。
他機器との接続が終わった後に、電源コードをセット本体につないでから電源プラグを壁のコンセントに差してください。

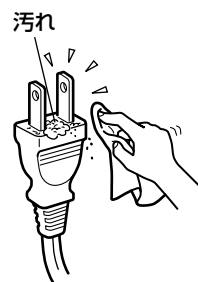
付属のACパワーアダプターを使用する

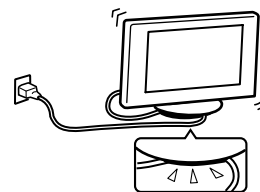
ACパワーアダプターのあるテレビでは、付属以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。

電源コードを抜くときはまず壁側コンセントから抜く

壁側コンセントから抜かないと感電することがあります。抜くときは必ずコードでなくプラグをもって抜いてください。

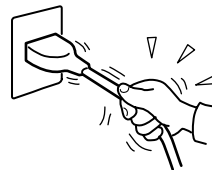
電源プラグは定期的にお手入れを

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを取ってください。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
万一電源コードが傷んだ場合は、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷が付き、火災や感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

下記の注意を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

ACパワーアダプターのあるテレビでは、ACパワーアダプターに布団などをかけたり、上にものを置いたりした状態で使わない

高温となるため、せまい空間での使用を避けて、熱がこもらないよう充分なスペースを空けてください。
熱がこもってケースが変形することがあります。また、火災や、やけどの原因となります。
以下の使用方法を必ず守って、本機をお使いください。

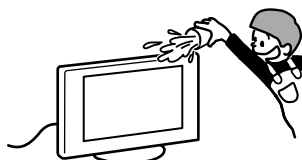
— ACパワーアダプターのまわりに物を置かない。
— ACパワーアダプターを布などでおおわない。
— 2つ以上のACパワーアダプターを重ねない。
— ACパワーアダプターを箱などにいれない。

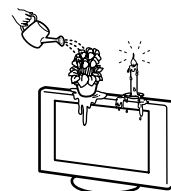
使用

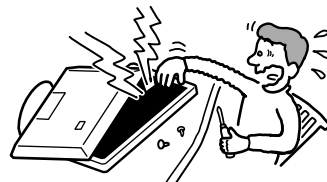
本機にぶらさがらない

本機が壁からはずれたり、倒れたりして、本機の下敷きになり、大けがの原因となることがあります。

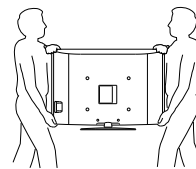
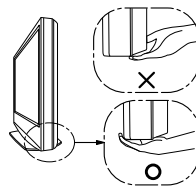
内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

内部に水が入ると火災や感電の原因となります。

分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

移動、設置

正しい方法で運搬/移動する

誤った方法で運搬したり移動したりすると、本機が落下し、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。
大型テレビは重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行ってください。
運ぶときには、衝撃を与えないようにしてください。落下や破損などにより、大けがの原因となります。
テレビの底面を持つときは、イラストにあるように後ろ側から手を回してしっかりと持ってください。

下記の注意を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

次のことを守って、スタンドや壁掛けユニットに本機を設置する

誤った取り付け方法で設置すると、本機が落下し、大けがをすることがあります。

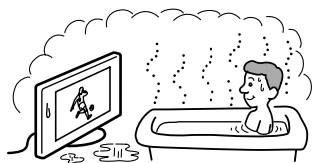
- 壁掛けユニットの取扱説明書の取り付け方法を必ず守る。
- 転倒防止の処置を必ず行う。転倒防止の処置をしないと、本機が倒れてけがの原因となることがあります。スタンドや床、壁などとの間に、適切な転倒防止の処置を行ってください。

不安定な場所に置かない

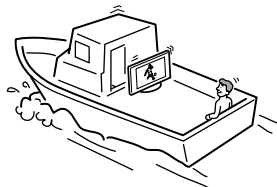
ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、本機が落ちたり倒れたりしてけがの原因となります。
平らで充分に強度があり、落下しない所に置いてください。

禁止

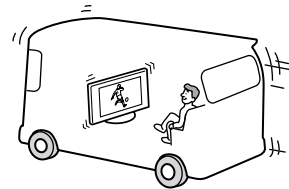
水のある場所に置かない

水が入ったり、ぬれたり、風呂場で使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用には特にご注意ください。

船舶の中などで使用しない

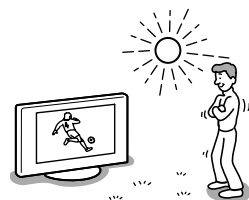
塩水をかぶり、発火や故障の原因となることがあります。

禁止

乗物の中や天井に取り付けない

移動中の振動により、本機が転倒したり落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁止

屋外や窓際で使用しない

雨水などにさらされ、火災や感電の原因となることがあります。また、直射日光を受けると、本機が熱を持ち、故障することがあります。

禁止

本機の表面が割れたときは、電源プラグをコンセントから抜くまで本機に触れない

電源プラグをコンセントから抜かずに本機に触れると、感電の原因となることがあります。

接触禁止

目や口に液晶を入れない/ガラスの破片に触れない

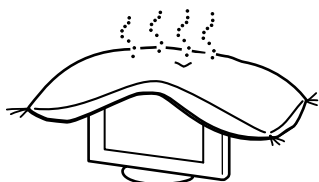
液晶パネルが破損すると、破損した部分から液晶(液状)が漏れたり、ガラスの破片が飛び散ることがあります。この液晶やガラスの破片に素手で触れたり、口に入れたりしないでください。ガラスの破片に触れるとけがをするおそれがあります。また、漏れた液晶に素手で触れると中毒やかぶれの原因となります。においを嗅ぐこともやめてください。誤って、目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

禁止

下記の注意を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。本機を壁に近づけすぎると、壁などにホコリが付着し、黒くなることがあります。風通しをよくするために、壁から距離を離して置いてください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない。
- 棚や押入の中に置かない。
- ホットカーペットの上に置かない。
- 布をかけない。

移動させるときは、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、電源プラグを抜く

本機を長時間使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグを抜いてください。
本機は電源スイッチを切っただけでは、完全に電源からは切り離されておらず、常に微弱な電流が流れています。完全に電源から切り離すためには電源プラグをコンセントから抜く必要があります。
コンセントは製品の設置場所に一番近く、抜き差しがしやすい場所を選んでください。

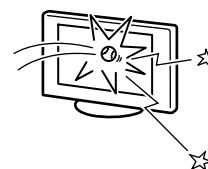
湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、熱器具の近くに置かない

火災や感電の原因となることがあります。

人が通行するような場所に置かない コード類は正しく配置する

電源コードや信号ケーブルは、足に引っかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかけたりするような恐れのある場所を避け、充分注意して接続･配置してください。

ディスプレイ画面の表面に物をぶつけない

ガラスが割れ、飛び散ったガラスにより、けがの原因となります。

下記の注意を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

銭湯や温泉の脱衣所に設置しない

温泉に含まれる硫黄などにより、硫化したり、高い湿度で本機が故障したりすることがあります。

禁止

油を使用する飲食店などでは使用しない

油を含んだほこりなどが、本機に入り、故障の原因となります。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと危険です。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

アンテナの工事は電気店に依頼する

アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、必ず電気店にご依頼ください。

使用上のご注意

使用・設置場所について

電源コンセントに容易に手が届く場所に置き、何か異常が起こったときは、すぐに電源プラグを抜くようにしてください。

- 本機の底面よりも、広くて水平で丈夫な場所に置いてください。
- 壁に掛けて使用するときは必ず専用の壁掛けユニット（別売り）を使用してください。

次のような場所での使用・設置はおやめください。

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内はとくに高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近くなど、温度の高い場所
  変形したり、故障したりすることがあります。
- 振動の多い場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。
- 暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。適度の明るさの中でご覧ください。また、連続して長い時間、画面を見ていることも目を疲れさせます。

音量について

- 周辺の人の迷惑とならないよう適度の音量でお楽しみください。特に、夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを使用したりして、隣近所への配慮を充分にし、生活環境を守りましょう。
- ヘッドホンをご使用のときは、耳をあまり刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。

液晶画面について

- 液晶画面を太陽にむけたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。屋外や窓際には置かないでください。
- 液晶画面を強く押したり、ひっかいたり、上に物を置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒い所でご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元に戻ります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

蛍光管について

本機は内部照明装置として専用蛍光管を使用しておりますが、この蛍光管には寿命があります。画面が暗くなったり、チラついたり、点灯しないときは、新しい専用蛍光管に取り替えてください。蛍光管の交換については、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にお問い合わせください。

輝点・滅点について

画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）が表れたりしますが、故障ではありません。
液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

メモリーに保存されるデータに関するご注意

- 本機のメモリーには、各種機能の設定時にIPアドレス、ブックマークなどが、また、ご使用にあたってメール、番組購入履歴などが記録されます。
- 本機のメモリーには、放送事業者の要求によりお客様が入力した個人情報や、データ放送のポイントなどが記録される場合があります。
- 本機を廃棄、譲渡などする場合には、本機のメモリーに記録されているデータを消去することを強くおすすめします。消去の方法について詳しくは、「個人情報を消去する」（☞45ページ）をご覧ください。
- 本機の不具合・修理など、何らかの原因で、本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復はいたしません。あらかじめご了承ください。

スクリーン画面のお手入れについて

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

外装のお手入れについて

- 乾いた柔らかい布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でカラぶきしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

リモコンの取り扱いについて

- 落としたり、踏みつけたり、中に液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- 直射日光が当たるところ、暖房機具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

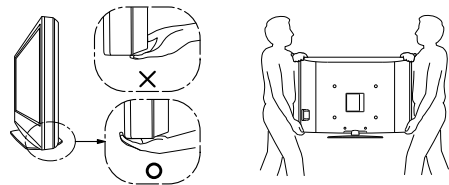
廃棄するときは

- **一般の廃棄物と一緒にしないでください。**
  ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。
- **本機の蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。**

搬送時のご注意

本機を落としたりするとけがや故障の原因となることがありますので、下記のことを必ずお守りください。

⚠注意

- 本機を運ぶときは、本機に接続されているケーブル等をすべてはずす。
- 修理や引っ越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱と、クッション材を使う。
- 大型テレビを手で運ぶときは、必ず2人以上で運んでください。
- テレビの底面を持つときは、イラストにあるように後ろ側から手を回してしっかりと持ってください。

乾電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

⚠警告

- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 充電しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

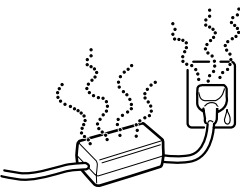
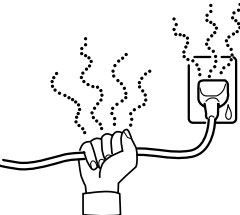
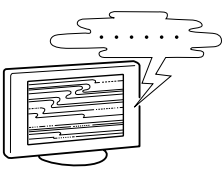
⚠注意

- ＋と－の向きを正しく入れる。
- 電池を使いきったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。
- **廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。**

もし電池の液が漏れたときは、リモコンの電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

安全点検チェックリスト

安全点検項目

番号	点検項目	
❶	布やテーブルクロスなどで**通風孔をふさいで**いませんか	**設置場所と設置方法**
❷	**水気、油気、湿気、ほこりの多いところ**に置いていませんか	
❸	**不安定な場所**に置いたり、**不安定な置きかた**をしていませんか	
❹	電源コードが**物**（**椅子、机、台など**）**の下敷き**になっていませんか	**電源コードとプラグ**
❺	**たこ足配線**をしていませんか	
1	電源コードを動かしたとき、**電源が入ったり切れたり**しませんか	
2	電源コードが窮屈に**折れ曲がったり、キズがついたり**していませんか	
3	電源コードやACパワーアダプター、プラグが**異常な熱**を持っていませんか	
4	**異常な熱や煙**が発生したり**変な臭いや音**（パチパチ）がしませんか	**液晶テレビ本体**
5	電源を入れても**画像や音が出ない**ことがありませんか	
6	**画像や音が途切れたり、乱れたり**しませんか	
7	**通風孔から水や異物**（紙・虫・クリップ・ピンなど）が入った形跡がありませんか	
8	**故障状態のまま**使用していませんか	

❸	点検結果 年／月 ○良い ×悪い					処置手順
❸						×印の項目があるとき そのままお使いになりますと故障や事故の原因になることがあります。 正しく安全な設置場所や設置方法に必ず改善してください。
3						1つでも×印があるとき すぐに電源プラグを抜いて使用を中止してください。 お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご相談ください。
6						

付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

付属品一覧

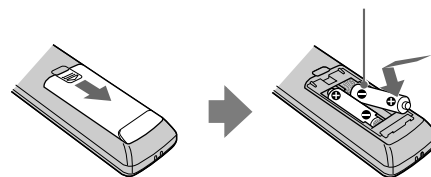
付属品	
B-CAS(ビーキャス)カード（デジタル放送用ICカード）（1枚） B-CAS用ユーザー登録はがき台紙（1枚）	B-CASカード
リモコン（1個）、 単3形乾電池（2個）	
VHF/UHF用アンテナ接続ケーブル（2.5m）（1本）	
電源コード（2.5m）（1本）	KDL-20S2000用 KDL-23S2000/KDL-26S2000/KDL-32S2000/KDL-40S2000/KDL-46S2000用
ACパワーアダプター（2m）（1個）（KDL-20S2000のみ）	
テレホンコード（10m）（1本）	
モジュラーテレホンコードカプラー（1個）	
転倒防止用ベルト（1本） 取付用ネジ（M6×18mm）（1個） 木ネジ（M3.8×20mm）（1個）	取付用ネジ 木ネジ
ケーブルホルダー（1個）	
取扱説明書 操作・困ったときは編（1部） 設置・接続編（1部）	

壁かけ設置ガイド「本機を壁にかけて使う」（KDL-20S2000を除く）
ソニーご相談窓口のご案内
保証書
（各1部）

別売りアクセサリーについて

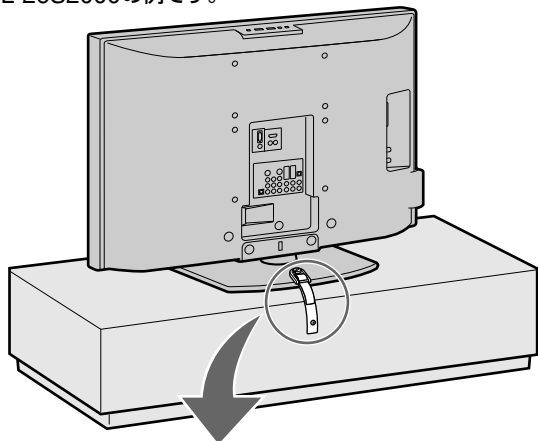
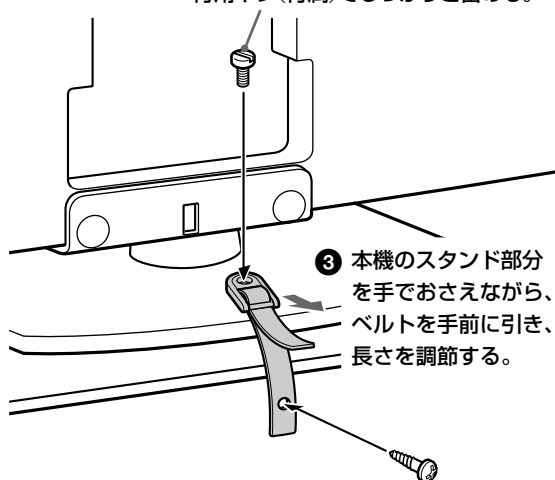
他機との接続（☞46ページ）には、別売りアクセサリーが必要です。本書記載の別売りアクセサリーは、2005年12月現在のものです。万一品切れや生産完了のときはご容赦ください。

リモコンに電池を入れるには

必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。無理に入れたり逆に入れたりすると、ショートの原因になり、発熱することがあります。

転倒防止の措置をする

転倒防止用ベルトを取り付ける。

本機後面

KDL-26S2000の例です。

壁に掛けるときは

本機を壁に掛けて使用するときは、必ず下記の別売り壁掛けユニットをご使用ください。

KDL-23S2000/KDL-26S2000/KDL-32S2000:SU-WL31

KDL-40S2000/KDL-46S2000:SU-WL51

(2005年12月現在)

詳しくは、壁掛けユニットの取扱説明書をご覧になり、正しい手順で作業を行ってください。

壁掛けユニットの取り付けは、お買い上げ店や工事店にご依頼ください。

ケーブルをまとめるには

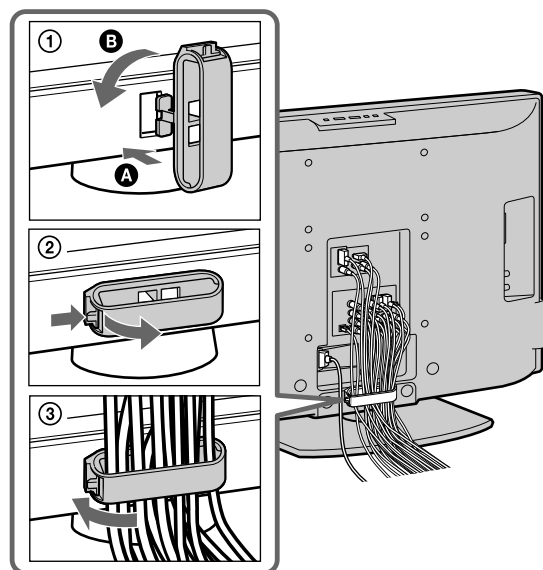
本機はケーブルホルダー(付属)を使ってケーブル類をすっきりまとめることができます。

1 ケーブルホルダー(付属)を本機後面に差し込み(Ⓐ)、左に回して固定する(Ⓑ)。

2 ツメを押してケーブルホルダーを開き、ケーブルをまとめる。

3 ケーブルホルダーを閉じる。

本機後面

KDL-26S2000の例です。

ご注意

- 転倒防止の処置をしないと、本機が転倒し、けがの原因となることがあります。
- テレビ台の種類により付属の木ネジが使用できないときがあります。そのような場合や、強度が充分とれない場合は、テレビ台などの取り付けに合った市販のネジをご用意ください。
- 市販のネジを使用するときは、直径3～4mmのネジをご用意ください。ネジの種類については、お買い上げ店や工事店にご相談ください。

準備の前に

ご覧になる放送によって、行う準備が異なります。☞20 ～ 40ページの準備を行うと、すべての放送を見る準備が整います。また、デジタル放送をご覧になるときは、電話回線を接続することをおすすめします。各設定終了後は「準備完了？チェックリスト」(☞41ページ)で確認してください。

地上アナログ放送を見るには

- 準備2：地上波アンテナをつなぐ
- 準備5：電源コードをつなぐ
- 準備6：お買い上げ時の初期設定(デジタル放送かんたん設定)をする
- 準備7：地上アナログ放送の設定をする
- 準備8：地上アナログ放送のチャンネル設定をする

地上デジタル放送を見るには

- 準備1：B-CASカード(デジタル放送用ICカード)を入れて登録する
- 準備2：地上波アンテナをつなぐ*1
- 準備5：電源コードをつなぐ
- 準備6：お買い上げ時の初期設定(デジタル放送かんたん設定)をする
- 準備9：地上デジタル放送の設定をする*2
- 準備10：地上デジタル放送のチャンネル設定をする*2

*1 地上デジタルを見るときは、地上波アンテナが地上デジタルに対応している必要があります。
*2 準備6を行えば、設定の必要はありません。

BSデジタル放送を見るには

110度CS(CS1、CS2)デジタル放送を見るには

- 準備1: B-CASカード(デジタル放送用ICカード)を入れて登録する
- 準備3: 衛星(BS・110度CSデジタル)アンテナをつなぐ
- 準備5: 電源コードをつなぐ
- 準備6: お買い上げ時の初期設定(デジタル放送かんたん設定)をする
- 準備11: 衛星(BS・110度CSデジタル)放送の設定をする*3
- 準備12: 衛星(BS・110度CSデジタル)放送のチャンネル設定をする

*3 準備6を行えば、設定の必要はありません。

デジタル放送のデータ放送(双方向通信など)を楽しむには

- 準備4: 電話回線につなぐ
- 準備10: 地上デジタル放送のチャンネル設定をする*4
- 準備14: 電話回線を設定する

*4 地域設定で郵便番号設定を行ってください。

■ :「テレビの接続」(☞20 ～ 27ページ)を行います。

■ :「受信設定」(☞28 ～ 40ページ)を行います。

準備1 B-CAS（ビーキャス）カード（デジタル放送用ICカード）を入れて登録する

B-CAS*カード（デジタル放送用ICカード）はお客様と地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルの放送局をつなぐカードです。

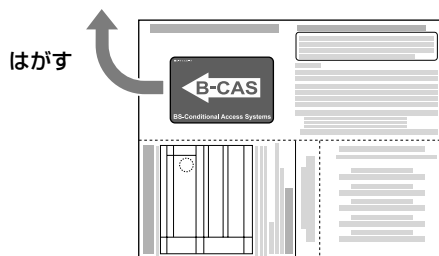
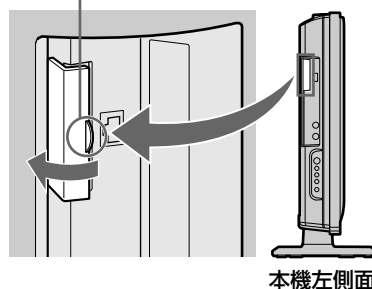
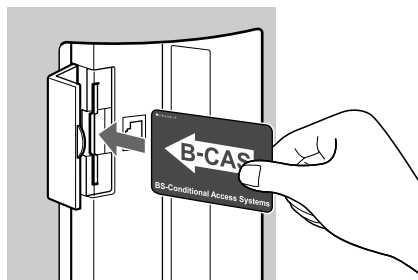
2004年4月より、番組の著作権保護のためデジタル放送は、B-CASカードを挿入していないと、スクランブルがかかって視聴することができません。
デジタル放送を視聴するときは、必ず、B-CASカードを挿入してください。

デジタル放送では、このカードを利用したCAS（限定受信システム）が採用されています。
また、有料番組（☞「操作・困ったときは編」の「その他の便利な機能」→「ペイパービュー（有料番組）を見る」）を見たり、データ放送の双方向サービスを受けたりするときも、B-CASカードを使用します。

* B-CASは（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズの略称です。

次の手順は、電源を切った状態で行ってください。

1 **同封の「ビーキャス（B-CAS）カード使用許諾契約約款」の内容を読み、了解された上で、台紙からB-CASカードをはがす。**

B-CAS用ユーザー登録はがき台紙の内容にご不明な点があるときは、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）へお問い合わせください。

2 **本機側面のB-CASカード挿入口のカバーを開く。**

3 **B-CASカードを奥までしっかり挿入する。**

B-CASと書かれた面を本機後面側に向けて、印刷された矢印の方向に挿入する。

B-CASカード挿入後、カバーが閉まっていることを確認してください。

4 **同梱のB-CAS用ユーザー登録はがきに必要事項を記入し、投函する。**

ちょっと一言

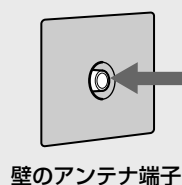
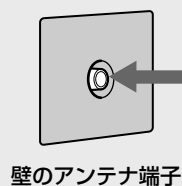
各種サービスの利用やカード交換などをスムーズに行うため、B-CASにユーザー登録することをおすすめします。

準備2

地上波アンテナをつなぐ

地上アナログまたは地上デジタルをご覧になるときは、地上波アンテナをつないでください。
地上デジタルのアンテナは、これまで使用していた地上アナログのUHF用アンテナを使用できる場合があります。ただし、地域によっては、アンテナの取り換えや方向の変更、ブースター(増幅器)の追加などが必要となることがあります。詳しくは、お買い上げ店などにご相談ください。

地上波アンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や使うケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、つないでください。いずれにも当てはまらない場合は、お買い上げ店などにご相談ください。
付属のVHF/UHF用アンテナ接続ケーブルで長さが足りないときは、市販のアンテナ延長ケーブルと付属のケーブルを組み合わせてつないでください。

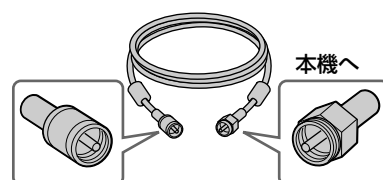
VHF/UHF混合、またはVHF、またはUHF

マンションなどの共同受信システム(VHF/UHF/BS/110度CS混合)

110度CSデジタルに共同受信システムが対応していれば、110度CSデジタルを受信できます。対応していない場合もBSデジタルは受信できます。
詳しくは、マンション管理会社にお問い合わせください。

次のページにつづく ⇨

ちょっと一言

ビデオ機器にアンテナケーブルをつなぐときは、壁のアンテナ端子とビデオのVHF/UHF入力端子をつなぎ、ビデオのVHF/UHF出力端子と本機のVHF/UHFアンテナ端子をつないでください。

ご注意

VHF/UHF用アンテナ接続ケーブルは、本機のVHF/UHFアンテナ端子にねじ込み式側を取り付けてください。

準備2　地上波アンテナをつなぐ（つづき）

きれいな映像をお楽しみいただくために

下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、電波妨害を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

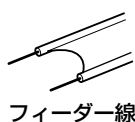
- 本機左側面のVHF/UHFアンテナ端子への接続は、付属のVHF/UHF用アンテナ接続ケーブルを使ってください。
- アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。
- 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。

地上デジタルのアンテナ工事について

お買い上げ店などにご相談ください。
特に、地上デジタル受信用に地上アナログ受信用とは別のアンテナを設置するときは、お買い上げ店やアンテナ工事業者とご相談の上、VHF/UHFアンテナ混合器をお使いください。

ご注意

- フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。お買い上げ店などにご相談ください。

フィーダー線

- これまでお使いのUHF用アンテナを地上デジタル用に使用する際に、受信エリア内であってもアンテナ設置状態、屋内配線状態でうまく映らなかったり、画面が乱れたりすることがあります。お買い上げ店などにご相談ください。

準備3

衛星（BS•110度CSデジタル）アンテナをつなぐ

BSデジタルまたは110度CSデジタルをご覧になるときは、衛星アンテナをつないでください。
衛星アンテナを本機に直接つなぎます。衛星アンテナの設置には技術が必要なため、お買い上げ店などに依頼することをおすすめします。
マンションなどの共同受信システムなどVHF/UHF/BS/110度CS混合のときは、☞21ページをご覧ください。

本機の電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。電源を入れたままアンテナケーブルをつなぐと、アンテナがショートし、衛星アンテナ電源（コンバーター電源）が「切」になることがあります。

衛星アンテナへ
防水型コネクター
推奨BS･110度CSデジタルハイビジョンアンテナ
SAN-40BK1
SAN-40B1
SAN-50B1
（いずれも別売り）
サテライト用同軸ケーブル（別売り）
本機左側面
BS/110度CS IF入力
⟶：信号の流れ

BSアナログチューナー内蔵ビデオをお持ちのときは

下記の接続をすると、ビデオのBSアナログチューナーも使えるため、ビデオでBSアナログを裏録画しながら、本機で他のBSデジタルを見ることができます。

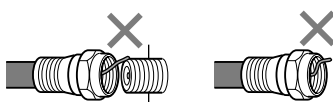
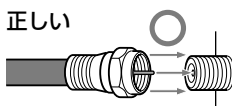
衛星アンテナより
サテライト分配器（別売り：EAC-DSD12またはEAC-DSD13など）
サテライト用同軸ケーブル（別売り）
BS IF入力端子へ
本機のBS/110度CS IF入力端子へ
BSアナログチューナー内蔵ビデオ

110度CSデジタルに対応していない分配器を使ったり、衛星アンテナからビデオを経由して本機のBS/110度CS IF入力端子につないだりしないでください。110度CSデジタルを受信できないことがあります。

次のページにつづく ⇨

ご注意

- BS/110度CS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブルをつないでください。BS/110度CS IF入力端子からは衛星アンテナ用の電源（DC15/11V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りのEAC-DSD12またはEAC-DSD13など）を必ずお使いください。
- サテライト用同軸ケーブルの芯線が、BS/110度CS IF入力端子やケーブルのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。

正しい

- サテライト用同軸ケーブルをアンテナコネクターでつないでいるときは、アンテナコネクターの芯線が、BS/110度CS IF入力端子やコネクターのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。
アンテナコネクターのふたを開けて、内部も確認してください。

準備3　衛星（BS•110度CSデジタル）アンテナをつなぐ（つづき）

110度CSデジタルを受信するには

110度CSデジタルに衛星アンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが対応していれば、110度CSデジタルを受信できます。詳しくは、お買い上げ店か、マンション管理会社にお問い合わせください。

すでにBSアナログ放送をご覧いただいているときは

お使いの衛星アンテナの向きを変えることなく、そのままBSデジタルもBSアナログもそれぞれに対応したBSチューナーで受信できます。
ただし、一部の衛星アンテナでは、性能の劣化やデジタル化に必要な性能が確保されていないこともあります。特定のチャンネルが映らなかったり、受信状況が悪い場合は、衛星アンテナ製造元のお客様窓口や、お買い上げ店などにお問い合わせください。

マンションなどの共同受信システムのときは

壁のアンテナ端子ひとつでBSデジタル、110度CSデジタルと地上波放送を受信できる共同受信システムのときは、BSデジタル、110度CSデジタルと地上波放送を分波して接続してください。
接続のしかたについて詳しくは、「準備2：地上波アンテナをつなぐ」（☞21ページ）をご覧ください。
また、メニューで「衛星アンテナ電源」を「切」にしてください（☞36ページ）。

ケーブルテレビ（CATV）に加入されているときは

受信契約をされているケーブルテレビ放送会社に、BSデジタルや110度CSデジタルに対応しているかを確認してください。ケーブルテレビ放送会社が対応していれば、BSデジタル、110度CSデジタルはご覧いただけます。詳しくは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

デジタルCS放送*を含めた共同受信システムのときは

お住まいのマンションの共同受信システムによって、壁のアンテナ端子への接続のしかたが異なります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に、共同受信システム方式を確認して、その指示に従って、接続および受信方法の設定（☞36ページ）を行ってください。

* SKY PerfecTV!のことです。110度CSデジタルではありません。

ご注意

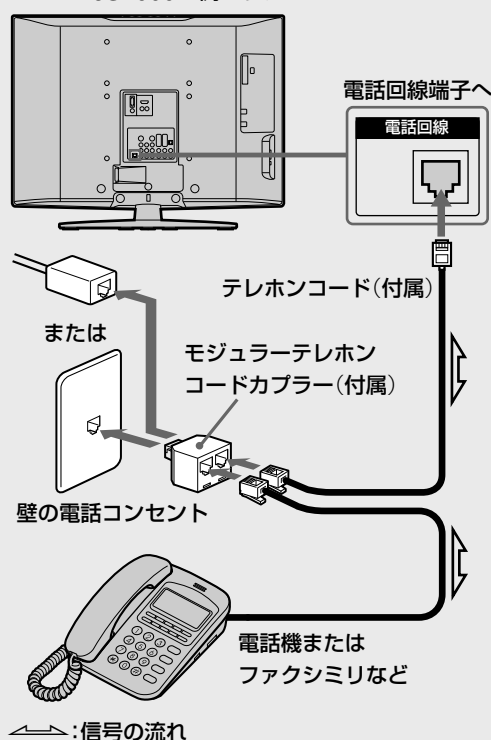
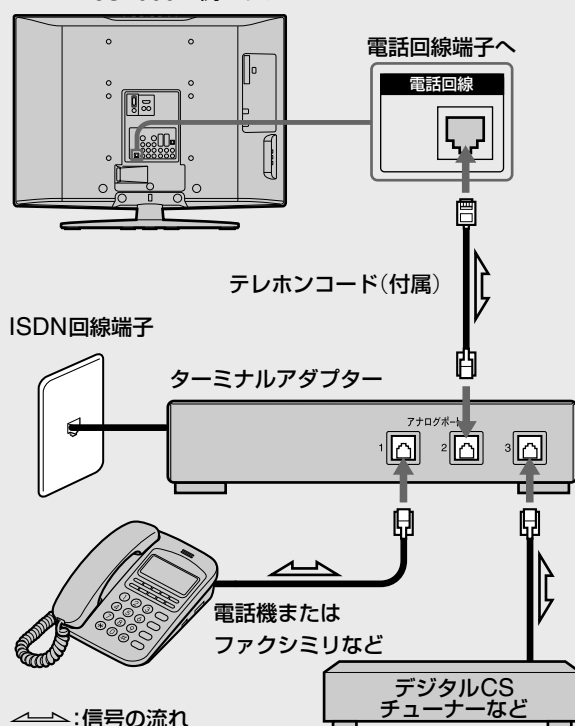
「衛星アンテナがショートしたため　衛星アンテナ電源の設定を「切」にしました　取扱説明書をご覧ください」という表示が出て、本機前面の電源ランプが緑色に点滅すると、「衛星アンテナ電源」が自動的に「切」になります。☞「操作･困ったときは編」の「故障かな？と思ったら」→「症状と対処のしかた」→「デジタル放送のメニュー操作」をご覧になり、対処してください。

準備4 電話回線につなぐ

ペイパービュー(有料番組)や視聴者参加型番組を楽しむためには本機を電話回線につなぐ必要があります。

1 **電話回線の使用状況に合わせてつなぐ。**

お住まいの電話回線の状況に合わせて、つないでください。壁のコンセントがモジュラージャック式でないときは、お買い上げ店や専門業者などにお問い合わせください。

壁の電話コンセントから電話を直接つないでいるとき

ISDN回線を使ってつないでいるとき(アナログ接続)

2 **電話回線設定をする(☞39ページ)。**

データ放送(アンケートなどの双方向通信)、B-CASカードの通信などで必要となります。
「準備14:電話回線を設定する」(☞39ページ)で必ず設定してください。

次のページにつづく ⇨

ご注意

- 次の電話回線にはつなげません。
  - 公衆電話および共同電話、地域集団電話
  - 携帯電話およびPHS、自動車電話
  - 船舶電話
  - 外線に電話するときに、電話番号の頭に「0」(0発信)または「9」(9発信)以外の数字を付けるとき
  - ビジネスホン
- ホームテレホンのときは、壁の電話コンセントがモジュラージャック式でも専門業者による工事が必要です。
- ISDN回線端子に付属のモジュラーテレホンコードカプラーをつながないでください。無理に押し込むと破損することがあります。
- 光ケーブルを利用したIP電話などではご使用できない場合があります。ご利用の回線事業者にお問い合わせください。
- 契約によっては、本機やパソコンなどの端末を複数台接続できないことがあります。ご利用の回線事業者へご確認ください。
- ターミナルアダプターにつないだ場合は、本機の電話回線を「トーン」に設定してください(☞39ページ)。

準備4　電話回線につなぐ（つづき）

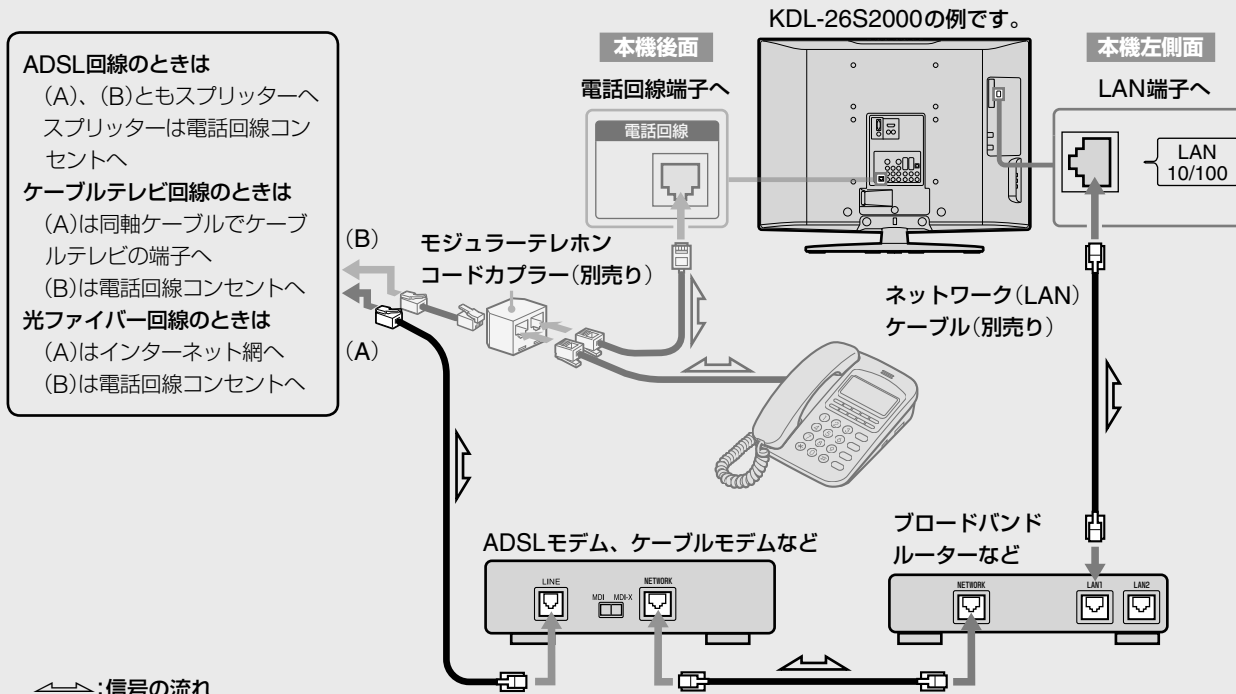
データ放送視聴中、さらに快適に放送局と通信を行うためには

データ放送のコンテンツ*1を放送局などのサーバーからインターネット経由で楽しむことができます。プロバイダーとの契約が必要です。

*1 地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルで運用されています。

1 プロバイダーとの契約をする。

2 インターネット回線の状況に合わせてつなぐ。

ADSL/ケーブルテレビ/光ファイバー回線などでつないでいるとき

3 設定をする。

「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞42ページ）で必ず設定してください。

ネットワーク（LAN）ケーブルをお使いになるときは

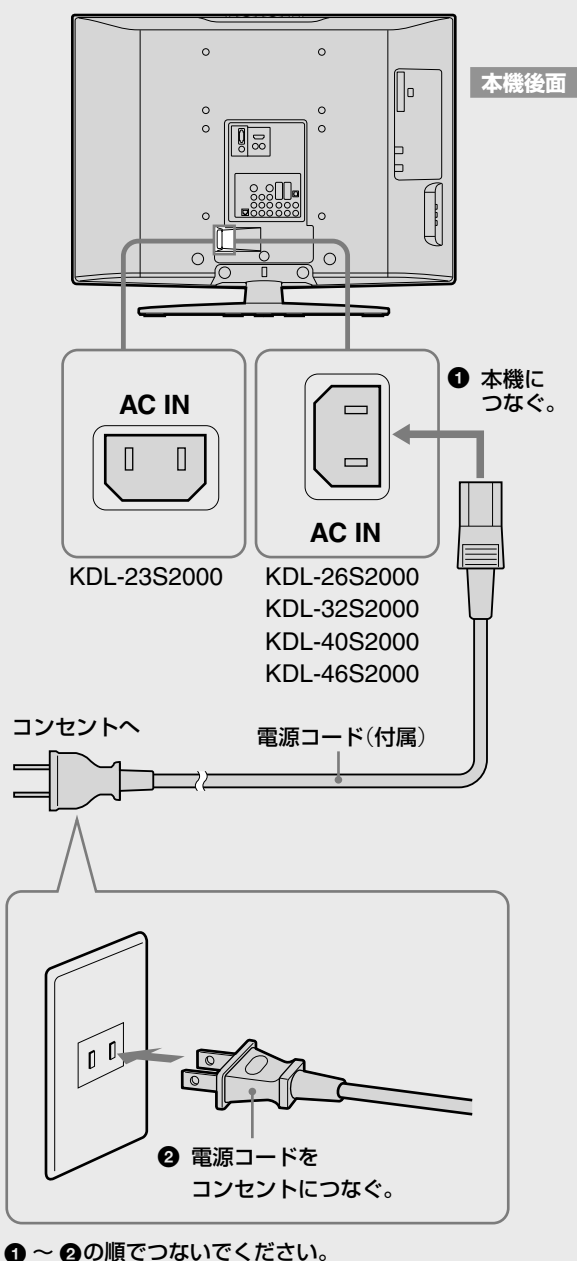
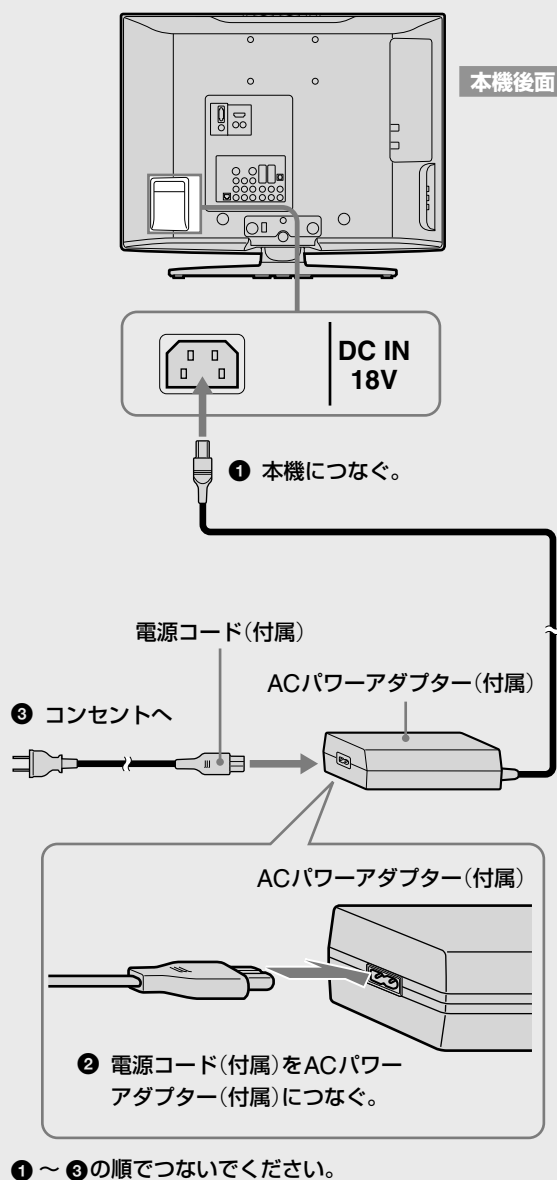
- ネットワーク（LAN）ケーブルには、ストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。
  モデムやルーターなどの種類により、使用するケーブルの種類が異なります。詳しくは、モデムやルーターの取扱説明書をご覧ください。
- 100BASE-TX/10BASE-Tタイプのネットワーク（LAN）ケーブルをお使いください。
  詳しくは、モデムやルーターの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機が放送局と、購入情報などを送受信しているときは、本機前面の消画/通信/タイマーランプが点滅し、電話機やファクシミリなど同一回線上の通信機器は使えません。
  その際、一部の通信機器で呼び出し音が鳴ることがあります。このときは、付属のモジュラーテレホンコードカプラーのかわりに、別売りの自動転換機を使ってください。なお、パソコンなどをお使いの場合は、高速データ通信用自動転換器をご使用ください。
- BSデジタル･110度CSデジタルの放送局へ登録などができないときは、NTTに問い合わせて、「回線ごと非通知設定」を解除してください。
- モデムなどについてご不明な点は、ご利用の回線事業者にお問い合わせください。

準備5

電源コードをつなぐ

すべての接続が終わってから、本機の電源コードをつなぎます。先に本機につないでからコンセントにつなぎます。

ご注意

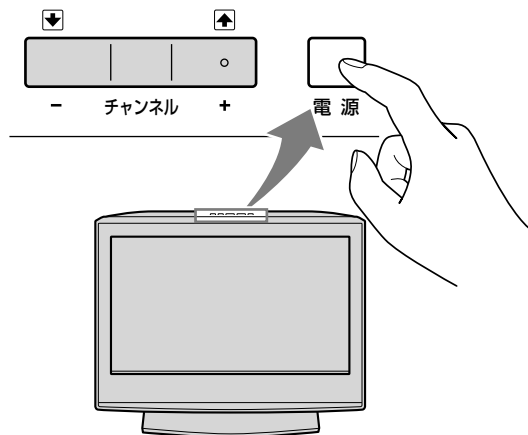
- 必ず、付属の電源コードとACパワーアダプター（KDL-20S2000のみ）をご使用ください。
- ビデオなどの機器をつなぐときも、すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントにつないでください。
- 本機へ付属の電源コードまたはACパワーアダプター（KDL-20S2000のみ）をつなぐときは、しっかり奥まで差し込んでください。

準備6 お買い上げ時の初期設定（デジタル放送かんたん設定）をする

（**手順1 ～ 11まで**）
はじめて本機の電源を入れると、デジタル放送を受信するための初期設定画面が表示されます。
初期設定の設定項目をすべて行えば、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルのすべてのデジタル放送の設定が完了します。
地上アナログを見るときは、必ず「準備7：地上アナログ放送の設定をする」（☞31ページ）も行ってください。
地上デジタルの放送が開始されていない地域では、地上デジタルの放送が開始されてから、メニューから「テレビの設定をする」→「（各種設定）」→「デジタル放送かんたん設定」の順に選び、設定してください。

お買い上げ時の初期設定（デジタル放送かんたん設定）は、下記のボタンだけで操作できます。

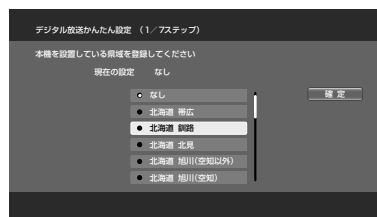
↑/↓/←/→/決定ボタン

1 本体の電源スイッチを押す。

「デジタル放送かんたん設定」画面が表示されます。
表示されたメッセージをよくお読みになり、「設定開始」が選ばれていることを確認して、**決定を押して手順2へ進んでください。**

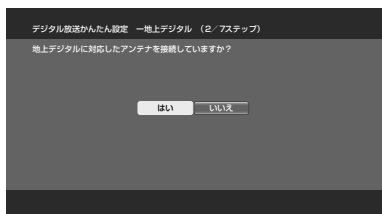
「中止」を選んでも、あとでやり直せます（☞「「デジタル放送かんたん設定」をあとでやり直すには」30ページ）。

地上デジタル

2 デジタル放送をご覧になるために、←/→/↑/↓でお住まいの都道府県名を選んで、決定を押す。

設定した県域のチャンネルを設定できるようになります。受信できるチャンネルについて詳しくは、「地上デジタル放送・地域別チャンネル割り当て一覧表」（☞50ページ）をご覧ください。

3 →で「確定」を選んで、決定を押す。

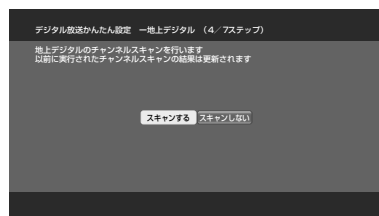
4 「はい」が選ばれていることを確認して、決定を押す。

地上デジタルに対応したアンテナをつないでいないときは、「いいえ」を選んで、手順9に進んでください。

5 ↑/↓/←/→で「UHF」または「CATV」を選ぶ。

「UHF」：UHFアンテナをつないでいるときに選びます。

「CATV」：ケーブルテレビで地上デジタルが配信されているときに選びます。

6 ↓で「確定」を選んで、決定を押す。

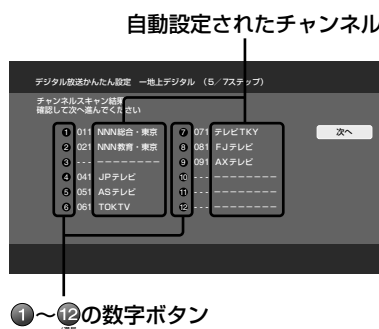
7 「スキャンする」が選ばれていることを確認して、決定を押す。

地上デジタルの受信できるチャンネルを自動設定します。

「スキャンしない」を選んだときは、手順9へ進んでください。

チャンネルスキャン中は、電源を切らないでください。

チャンネルスキャンが終了すると、下の画面になります。

自動設定されたチャンネル

①〜⑫の数字ボタン

8 設定されたチャンネルを確認して、決定を押す。

正しくチャンネルスキャンできないときは、地上デジタルのアンテナレベルを確認してください(☞33ページ)。

受信設定

次のページにつづく ⇨

準備6　お買い上げ時の初期設定（デジタル放送かんたん設定）をする（つづき）

BS・110度CSデジタル

9 ←/→で「はい」または「いいえ」を選んで、決定を押す。

「**はい**」：衛星アンテナを直接つないでいるときに選びます。
「はい」を選んだときは、衛星アンテナレベルを調整するための画面が表示されます。

「**いいえ**」：マンションなどの共同受信システムのときや、BSデジタル、110度CSデジタルを視聴しないときに選びます。
「いいえ」を選んだときは、設定が終了し、テレビ画面に戻ります。

10 衛星アンテナを動かして、アンテナレベルを調整する。

アンテナレベルができるかぎり最大値に近くなるように、アンテナの向きを調整し固定します。
衛星アンテナの向きの調整について詳しくは、「衛星アンテナの向きを調整する」(☞36ページ)をご覧ください。

11 「確定」が選ばれていることを確認して、決定を押す。

設定が終了すると、テレビ画面に戻ります。

「デジタル放送かんたん設定」をあとでやり直すには

地上デジタルの放送が開始されていない地域など、お買い上げ時に初期設定ができなかったときは、放送が開始されてから「デジタル放送かんたん設定」を行ってください。

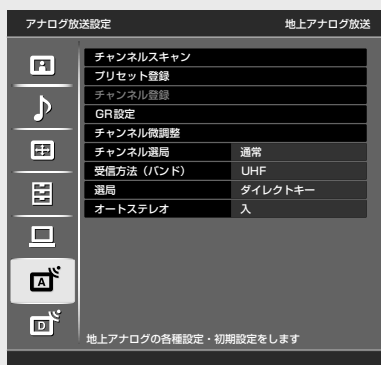
1. メニューボタンを押す。
2. ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。
3. ↑/↓で「(各種設定)」を選んで、決定を押す。
4. ↑/↓で「デジタル放送かんたん設定」を選んで、決定を押す。
5. ☞28 ～ 30ページの手順1 ～ 11を行う。

準備7 地上アナログ放送の設定をする

設定する前に、地上アナログに切り換えてください。

1 (メニュー)を押す。

2 ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。

3 ↑/↓で「(アナログ放送設定)」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

受信方法を設定する

「受信方法(バンド)」を選ぶ。

VHFは共通で受信できます。

UHF:地上アナログをUHFアンテナで受信します。

CATV:地上アナログをケーブルテレビで受信します。

自動でチャンネルを設定する

「チャンネルスキャン」を選ぶ。

受信できる地上アナログを自動的に設定します。地上アナログが放送中の時間帯に行ってください。「はい」が選ばれていることを確認して、決定を押すと、自動的に設定が始まります。設定中は、操作を行ったり電源を切ったりしないでください。自動設定し終わると、「プリセット登録」画面に変わります。設定されたチャンネルを確認してください。

設定されたチャンネルを変更するときは

「準備8:地上アナログ放送のチャンネル設定をする」(☞32ページ)をご覧ください。

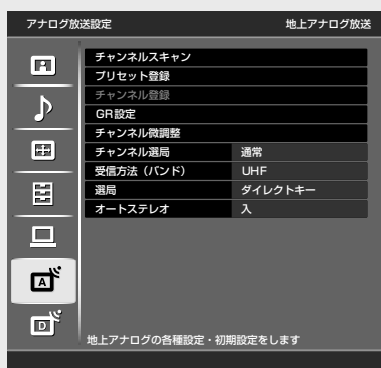
受信設定

ご注意

ケーブルテレビでも、チャンネルは自動設定できます。自動設定がうまく行かなかったときは、「受信方法(バンド)」を「CATV」に設定してから、チャンネルを手動で設定してください(☞32ページ)。

準備8 地上アナログ放送のチャンネル設定をする

「準備7:地上アナログ放送の設定をする」(☞31ページ)で自動設定したチャンネルを変更したいときに、手動でチャンネルを設定します。
「チャンネルスキャン」画面で、チャンネルの自動設定が終了すると、「プリセット登録」画面が自動的に表示されます。その他の設定が必要なときは、下記を行ってください。

1 (メニュー)を押す。

2 ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。

3 ↑/↓で「(アナログ放送設定)」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

ワンタッチ選局できるチャンネルを変更する

「プリセット登録」を選ぶ。

チャンネル＋/－ボタンで選べるチャンネルを変更する

「チャンネル登録」を選ぶ。

「選局」が「10キー」になっているときのみ選べ、チャンネル＋/－ボタンで選べるチャンネルを変更できます。
受信:チャンネル＋/－ボタンで選べるようになります。
－－:チャンネル＋/－ボタンで選べなくなります。

ちらつきの少ない映像にする（KDL-20S2000、KDL-23S2000を除く）

「GR設定」（ゴースト・リダクション）を選ぶ。

「入」を選ぶと、放送局から送信されるゴースト除去基準信号を感知し、建物や地形などによる電波反射で発生するゴーストを少なくするようにします。

チャンネルの受信状態を最適化する

「チャンネル微調整」を選ぶ。

受信しているチャンネルごとに設定できます。
オート:自動で最適な受信状態に調整します。
カスタム:手動で調整バーを使って受信状態を調整できます。

ステレオ放送を自動設定する

「オートステレオ」を選ぶ。

VHF/UHFのステレオ放送で雑音が気になるときに、「切」を選ぶと、音声をモノラルにして雑音を軽減できます。チャンネルごとに設定してください。

ご注意

- 「GR設定」は地上アナログのみ設定できます。本機につないだ機器の再生映像などには働きません。
- 「GR設定」が「入」のとき、チャンネルを切り換えたあと、数秒してから働きます。そのときに、画面が一瞬またたくことがありますが、故障ではありません。
- 受信している電波が弱いときは、GR設定が働くまでに時間がかかることがあります。

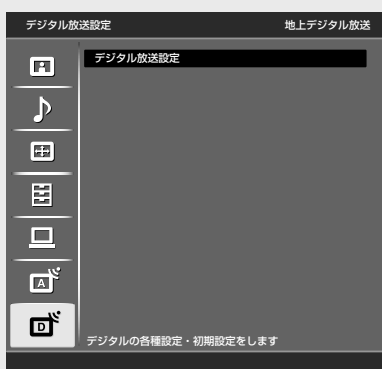
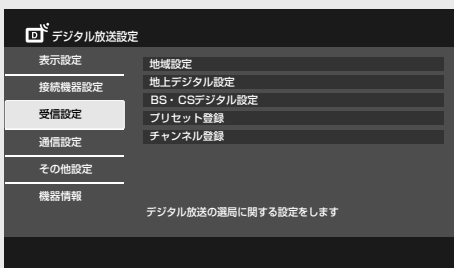
準備9 地上デジタル放送の設定をする

準備6(☞28ページ)の手順1～11をすべて行ったときは、このページの設定は不要です。

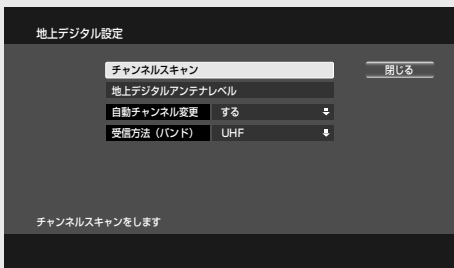
設定する前に、地上デジタルに切り換えてください。

1 (メニュー)を押す。

2 ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。

3 ↑/↓で「(デジタル放送設定)」を選んで、決定を2回押す。

4 ↑/↓で「受信設定」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で「地上デジタル設定」を選んで、決定を押す。

6 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

自動でチャンネルを設定する

「チャンネルスキャン」を選ぶ。

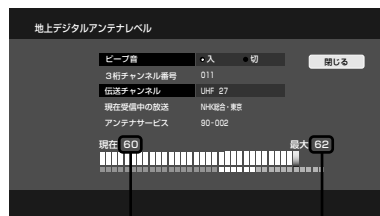
初期スキャン:受信できるすべてのチャンネルをスキャンし、チャンネル番号❶～⓬に自動的に設定します。

再スキャン:設定済みのチャンネルはそのままで、新しく受信できるチャンネルのみをスキャンして自動設定します。

地上デジタルのアンテナレベルを確認する

「地上デジタルアンテナレベル」を選ぶ。

受信中のアンテナレベルを確認できます。

アンテナレベルが緑色の部分に差し掛かると受信状態が良いです。最大値は受信地域によって異なります。

放送局やチャンネルが増えたときに自動で受信できるようにする

「自動チャンネル変更」を選ぶ。

する:通常は「する」でお使いください。放送局やチャンネルが増えたときに自動で受信できるようになります。

しない:放送局やチャンネルが増えたとき、チャンネルスキャンすると受信できるようになります。

受信方法を設定する

「受信方法(バンド)」を選ぶ。

UHF:地上デジタル対応のUHFアンテナをつないでいるときに選びます。

CATV:ケーブルテレビで地上デジタルが配信されているときに選びます。

ちょっと一言

- 「地上デジタルアンテナレベル」は、アンテナ設置方向の最適値を確認するための目安です。表示される数値は、受信C/Nの換算値を表します。
- 「地上デジタルアンテナレベル」画面で「ビープ音」を「入」にすると、いちばん高い音程になるように音を聞きながらアンテナの向きを調整できます。

準備10 地上デジタル放送のチャンネル設定をする

デジタル放送では、地域ごとに特有の放送が行われる場合があります。お住まいの地域の放送を受信できるように、お買い上げ時の初期設定に加えて、郵便番号設定を行ってください。
設定する前に、地上デジタルに切り換えてください。

1 メニュー(メニュー)を押す。

2 ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。

3 ↑/↓で「(デジタル放送設定)」を選んで、決定を2回押す。

4 ↑/↓で「受信設定」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

準備6(☞28ページ)の手順5～8を行ったときは、このページでは郵便番号を設定してください。

地域設定する

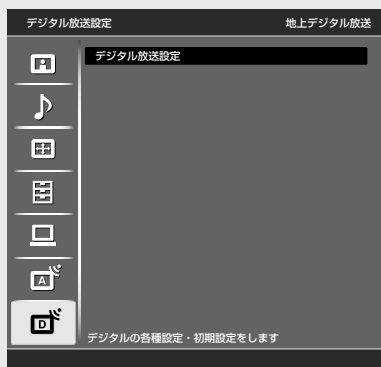
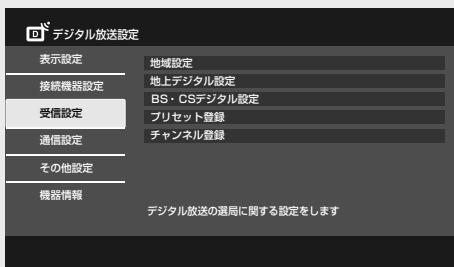
「地域設定」を選ぶ。

県域設定:お買い上げ時や、引越しなどでお住まいの地域が変わったときに設定します。
郵便番号設定:❶～❿までの数字ボタンでお住まいの地域の郵便番号3桁または7桁を入力します。

ワンタッチ選局できるチャンネルを変更する

「プリセット登録」→「地上デジタルプリセット登録」の順に選ぶ。

リモコンの❶～⓬ボタンを押して選局できるチャンネルを変更できます。↑/↓/←/→で変更したいチャンネルを選んで決定を押し、↑/↓で3桁チャンネル番号を変更します。
「－－－」に設定すると受信できません。

例:❷を押して110チャンネルを見たいときは、ここを「110」にする。

ご注意

- 郵便番号を設定するときは、お住まいの地域の郵便番号を正しく入力してください。間違った郵便番号を入れると、お住まいの地域に密着した情報が受信できなかったり、お住まいでない地域の情報を誤って受信してしまいます。
- 県域設定を変更したときは、「自動でチャンネルを設定する」(☞33ページ)で「初期スキャン」を行ってください。

チャンネル+/−ボタンや番組表で選べるチャンネルを変更する

「チャンネル登録」→「地上デジタルチャンネル登録」の順に選ぶ。

↑/↓/←/→でチェック欄を選んで決定を押すと、□に✓が付きます。✓をはずすには、もう一度決定を押します。
✓を付けると、選べるようになります。

「+/−ボタン」チェック欄
✓をはずすと、チャンネル+/−ボタンでチャンネルをとばせます。

「すべて登録」
□のあるすべてのチャンネルに、✓が付く。

「番組表」チェック欄
✓をはずすと、番組表や他チャンネルリストに表示されなくなります。

「すべてクリア」
すべての✓をはずす。

ご注意

「地上デジタルチャンネル登録」で設定するときは、臨時チャンネルは選べません。

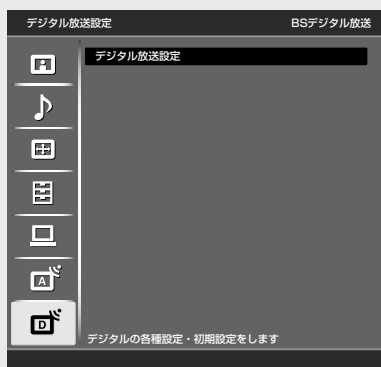
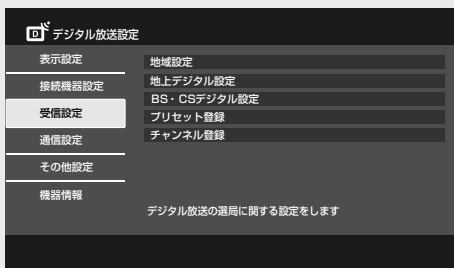
準備11 衛星（BS•110度CSデジタル）放送の設定をする

準備6（☞28ページ）の手順1 ～ 11をすべて行ったときは、このページの設定は不要です。

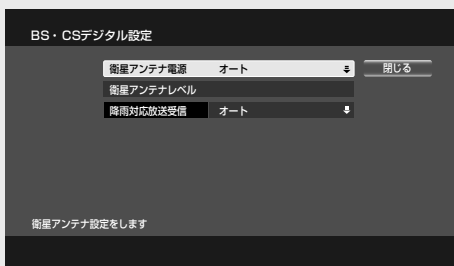
設定する前に、BSデジタルまたは110度CSデジタルに切り換えてください。

1 メニュー（メニュー）を押す。

2 ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。

3 ↑/↓で「（デジタル放送設定）」を選んで、決定を2回押す。

4 ↑/↓で「受信設定」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で「BS・CSデジタル設定」を選んで、決定を押す。

6 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

衛星アンテナ電源を設定する

「衛星アンテナ電源」を選ぶ。

衛星アンテナに電源を供給するかを設定します。

オート：本機の電源が入っているときに、本機が衛星アンテナに電源を供給するかどうかを自動的に判断します。本機の電源が切れているときは供給しません。

入：本機の電源が入っているときはつねに電源を供給します。本機の電源が切れているときは供給しません。「オート」の設定でお使いのとき、BSデジタルが映ったり消えたりするときは「入」に設定してください。

切：電源を供給しません。マンションなどの共同受信システムのときは「切」に設定してください。

衛星アンテナの向きを調整する

「衛星アンテナレベル」を選ぶ。

アンテナレベルが、できるかぎり最大値に近くなるように、アンテナの向きを調整し固定します。

受信中のアンテナレベル　最大値

ご注意

衛星アンテナの向きを調整する前に、「衛星アンテナ電源」が「オート」または「入」になっているか確認してください。「切」になっているときは、「オート」または「入」にしたあと、テレビ本体の電源スイッチで主電源を入れ直してください。

ちょっと一言

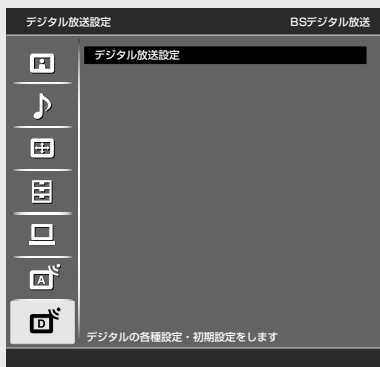
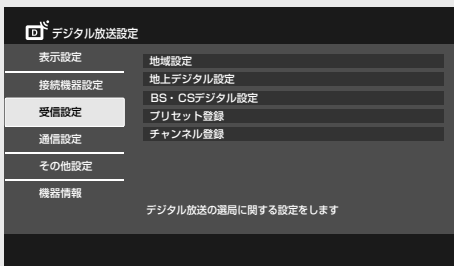
- 「衛星アンテナレベル」は、アンテナ設置方向の最適値を確認するための目安です。表示される数値は、受信C/Nの換算値を表します。
- 「衛星アンテナレベル」画面で「ビープ音」を「入」にすると、いちばん高い音程になるように音を聞きながらアンテナの向きを調整できます。

準備12 衛星（BS・110度CSデジタル）放送のチャンネル設定をする

設定する前に、BSデジタルまたは110度CSデジタルに切り換えてください。

1 （メニュー）を押す。

2 ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。

3 ↑/↓で「（デジタル放送設定）」を選んで、決定を2回押す。

4 ↑/↓で「受信設定」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

ワンタッチ選局できるチャンネルを変更する

「プリセット登録」→「BSデジタルプリセット登録」または「CS1デジタルプリセット登録」、「CS2デジタルプリセット登録」の順に選ぶ。

リモコンの①～⑫ボタンを押して選局できるチャンネルを変更できます。↑/↓/←/→で変更したいチャンネルを選んで決定を押し、↑/↓で3桁チャンネル番号を変更します。
「－－－」に設定すると受信できません。
「初期化」ボタンを選んで決定を押すと、お買い上げ時の状態に戻ります。

チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるチャンネルを変更する

「チャンネル登録」→「BSデジタルチャンネル登録」または「CS1デジタルチャンネル登録」、「CS2デジタルチャンネル登録」の順に選ぶ。

↑/↓/←/→でチェック欄を選んで決定を押すと、□に✓が付きます。✓をはずすには、もう一度決定を押します。
✓を付けると、選べるようになります。

ご注意

「チャンネル登録」で設定するときは、臨時チャンネルは選べません。

準備13 各放送局に視聴を申し込む

加入申し込みが必要な有料BSデジタル放送局と110度CSデジタル衛星サービス会社のカスタマーセンター（お問い合わせ先）一覧

BSデジタルの有料放送や110度CSデジタルを視聴するには、各局へ加入申し込みをして契約する必要があります。
加入申し込み方法はBSデジタル放送局や110度CSデジタル衛星サービス会社により異なります。詳しくは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。
なお、無料放送でも登録が必要な場合があります。詳しくは、ご覧になりたい放送局へお問い合わせください。

2005年12月現在の電話番号とホームページアドレスです。

有料BS•110度CSデジタル放送局

放送局	お問い合わせ電話番号/ホームページアドレス
WOWOW*1	0120-480801 受付 9:00 ～ 20:00（年中無休） http://www.wowow.co.jp/
スター・チャンネル*2	スター･チャンネル カスタマーセンター 03-5563-6777 受付 10:00 ～ 18:00 http://www.star-ch.co.jp/ なお、スター･チャンネルBSの加入申し込みは、下記のｅ２ ｂｙ スカパー！へお問い合わせください。

*1 テレビ放送のみが、視聴申し込みが必要な有料放送です。独立データ放送（WOWOW プロモチャンネル：791ch）は無料放送です。
*2 テレビ放送のみが、視聴申し込みが必要な有料放送です。独立データ放送（800ch）は無料放送です。

110度CSデジタル衛星サービス会社

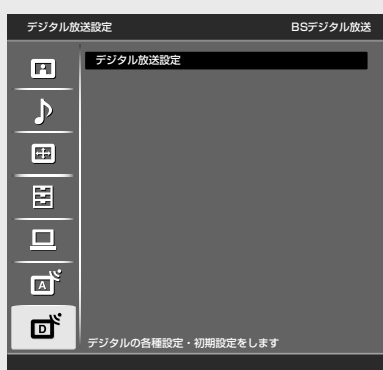
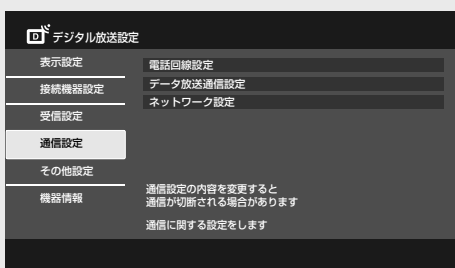
110度CSデジタル衛星サービス	お問い合わせ電話番号/ホームページアドレス
ｅ２ ｂｙ スカパー！（CS1･CS2）	■ カスタマーセンター 「ｅ２ ｂｙ スカパー！カスタマーセンター」 0570-08-1212 PHS、IP電話のお客様は 045-276-7777 受付 10:00 ～ 20:00（年中無休） ■ ホームページ 「ｅ２ ｂｙ スカパー！ホームページ」 www.e2sptv.jp

準備14 電話回線を設定する

設定する前に、デジタル放送に切り換えてください。

1 （メニュー）を押す。

2 ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。

3 ↑/↓で「（デジタル放送設定）」を選んで、決定を2回押す。

4 ↑/↓で「通信設定」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で「電話回線設定」を選んで、決定を押す。

6 ↑/↓/←/→で設定したい項目を選んで、決定を押す。

選ぶ項目	できること
電話回線の設定	**オート**：回線の種類を自動的に選びます。「オート」でうまく通信できないときは、「トーン」「10pps」または「20pps」を選んでください。 ADSL回線を使っているときは「オート」を選んでください。 **トーン**：NTTの料金明細書で「プッシュホン回線用の基本料（回線使用料）」が請求されているときや、ISDN回線を使っているときに選んでください。 **10pps/20pps**：NTTの料金明細書で「プッシュホン回線用の基本料（回線使用料）」が請求されていないときに選んでください。
発信方法	**通常発信**：外線に電話するときに、相手の電話番号にそのままかけるときは、「通常発信」を選んでください。 **0発信/9発信**：外線に電話するときに、電話番号の頭に「0」（0発信）または「9」（9発信）を付けるときに選んでください。
電話線接続確認	電話線が正常に接続されているか確認できます。

次のページにつづく ⇨

準備14　電話回線を設定する（つづき）

選ぶ項目	できること
詳細設定	 **発信先への電話番号通知** **通知しない:**電話番号の先頭に「184」を付けます。相手先にこちらの電話番号を知らせない設定です。 **通知する:**電話番号の先頭に「186」を付けます。相手先にこちらの電話番号を知らせる設定です。 **設定なし:**電話番号の先頭に何も付けません。 **電話会社の番号:**必要なときに設定してください。リモコンの1～10の数字ボタンで変更したい電話会社の番号の下2～5桁を入力して、決定を押してください。マイラインプラスの契約をしている場合は、「マイラインプラス契約」を「している」に設定してください。

ご注意

- デジタル放送の放送局へ登録などができないときは、NTTに問い合わせて、「回線ごと非通知設定」を解除してください。
- 「電話線接続確認」は、本機と電話回線が物理的に接続されてやり取りできるかをテストするもので、テストがうまくいってもつながらないときは、再び「電話回線の設定」で「トーン」や「10pps」、「20pps」を正しく設定し直してください。
- データ放送によっては、マイラインプラスの契約どおりに通信できないことがあります。

準備完了？チェックリスト

取扱説明書の「準備1：B-CASカード（デジタル放送用ICカード）を入れて登録する」（☞20ページ）から「準備14：電話回線を設定する」（☞39ページ）を順番に行えば、テレビ放送を見ることができるようになります。下記のチェックリストで、もう一度確認してください。それでもテレビが映らないときは、☞「操作・困ったときは編」の「困ったときは」をご覧ください。

テレビ放送がきちんと映るかどうかをチェック！	映像がきれいに映るかどうかをチェック！
□ 電源コードはつなぎましたか？ ☞27ページ □ テレビ本体の電源は入れましたか？ ☞28ページ	
地上アナログ放送を見たい	
□ 地上波アンテナをつなぎましたか？ ☞21ページ	□ 地上アナログのチャンネルは設定しましたか？ ☞31～32ページ □ アンテナ線を他の電源コードや接続ケーブルから離していますか？ ☞22ページ
地上デジタル放送を見たい	
□ 地上波アンテナをつなぎましたか？ ☞21ページ □ B-CASカード（デジタル放送用ICカード）は入れましたか？ ☞20ページ	□ お使いのアンテナは地上デジタルに対応していますか？ ☞21ページ □ アンテナの受信状態は良好ですか？ ☞33ページ
BSデジタル放送・110度CS（CS1、CS2）デジタル放送を見たい	
□ 衛星アンテナをつなぎましたか？ ☞23ページ □ B-CASカード（デジタル放送用ICカード）は入れましたか？ ☞20ページ □ 放送局に視聴申し込みをしましたか？ ☞38ページ	□ お使いのアンテナはデジタル放送に適したアンテナですか？ ☞23ページ □ アンテナの受信状態は良好ですか？ ☞36ページ
デジタル放送のデータを楽しみたい	
□ 電話回線はつなぎましたか？ ☞25ページ □ 郵便番号の設定はしましたか？ ☞34ページ □ 電話回線の設定はしましたか？ ☞39ページ	

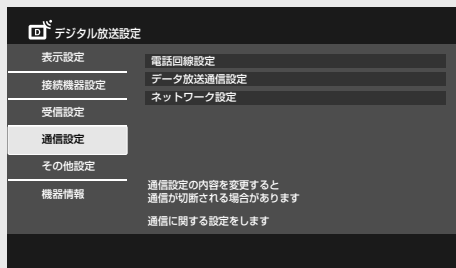
■：「テレビの接続」（☞20～27ページ）をご覧ください。
■：「受信設定」（☞28～40ページ）をご覧ください。

データ放送のためのネットワークを設定する

設定する前に、デジタル放送に切り換えてください。設定する項目は、状況によって異なります。インターネットプロバイダーからの資料などを参考に設定してください。

1 (メニュー)を押す。

2 ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。

3 ↑/↓で「(デジタル放送設定)」を選んで、決定を2回押す。

4 ↑/↓で「通信設定」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で「ネットワーク設定」を選んで、決定を押す。

6 ↑/↓/←/→で設定したい項目を選んで、決定を押す。

選ぶ項目	できること
IPアドレス取得方法	**DHCPを利用:**ルーターやプロバイダーのDHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)サーバー機能により、自動でネットワークの設定を割り当てます。 **固定IPアドレスを指定:**ルーターの使用状況にあわせた値やプロバイダーが指定する値があるときの設定です。手動でネットワークの設定を入力する必要があります。 ↑/↓で手動入力する項目を選んで決定を押し、1〜10の数字ボタンで4つの枠に3桁の数値(0 〜 255)を入力してください。 手動入力する項目は次のとおりです。 **IPアドレス:** **サブネットマスク:** **デフォルトゲートウェイ:** **DNSサーバー(プライマリ)/(セカンダリ):** プロバイダーの指定の値を入力してください。
接続診断	ネットワークに正常に接続できるかの確認をします。
プロキシ設定	プロバイダーからプロキシサーバーの指定があるときに設定してください。 **プロキシサーバー使用:**プロバイダーからプロキシサーバーの指定があるときは「する」に設定してください。 手動入力する項目は次のとおりです。 **プロキシサーバー:** **ポート(1 〜 65535):** プロバイダーの指定の値を入力してください。

ちょっと一言

DNSサーバーは、「ネームサーバー」、「プライマリDNSサーバー」、「プライマリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」ともいいます。

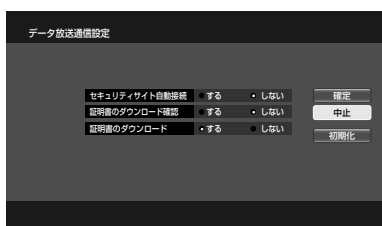
データ放送の通信設定をする

1 **メニューボタンを押す。**

2 **↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。**

3 **↑/↓で「(デジタル放送設定)」を選んで、決定を2回押す。**

4 **↑/↓で「通信設定」を選んで、決定を押す。**

5 **↑/↓で「データ放送通信設定」を選んで、決定を押す。**
地上デジタルでデータ放送のコンテンツに入るときなどに、確認のダイアログを表示するかの設定ができます。

選ぶ項目	できること
セキュリティサイト自動接続	**する:** セキュリティ保護されたサイトを表示しようとしたときや、セキュリティ保護されていないサイトへ移るとき、確認ダイアログを表示しないで、自動接続します。 **しない:** セキュリティサイト表示の確認ダイアログを表示します。
証明書のダウンロード確認	**する:** 放送局から新しい証明書が発行されたとき、ダウンロードの確認ダイアログを表示します。 **しない:** ダウンロードの確認ダイアログを表示しません。
証明書のダウンロード	**する:** 放送局から発行された新しい証明書を自動的にダウンロードします。 **しない:** 放送局から新しい証明書が発行されても、ダウンロードしません。

セキュリティ証明書を見るには

1 **メニューボタンを押す。**

2 **↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。**

3 **↑/↓で「(デジタル放送設定)」を選んで、決定を2回押す。**

4 **↑/↓で「機器情報」を選んで、決定を押す。**

5 **↑/↓で「ルートCA証明書一覧」または「通信先証明書一覧」を選んで、決定を押す。**

6 **↑/↓で見たい証明書を選んで、決定を押す。**
証明書の詳細内容が表示されます。
ルートCA証明書のときは、↑/↓で「削除」を選んで決定を押すと、表示しているルートCA証明書を削除できます。また、一覧表示中に「全件削除」を選んで決定を押すと、すべてのルートCA証明書を削除できます。

その他の設定

ちょっと一言

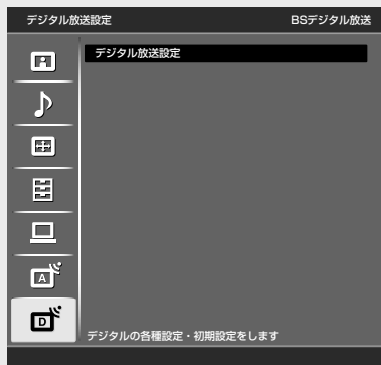
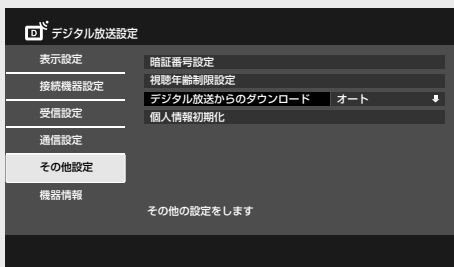
- ルートCA証明書はルートCA(認証機関)が発行するデジタル証明書で、放送局が運営するセキュリティサイトとの通信の安全性を示すものです。
セキュリティ情報をやりとりするときに、接続先のセキュリティサイトの証明書が確認され、信頼するかどうかを決定できます。
- 通信先証明書はセキュリティサイトを表示しているときに見ることができます。セキュリティサイトを表示しているときは画面右下にが表示されます。
- セキュリティサイトを表示中でも、証明書取得中は通信先証明書を表示できないことがあります。

視聴年齢制限を設定する・個人情報を消去する

デジタル放送で推奨する視聴年齢がある番組を、暗証番号を入力しなければ視聴できないように設定できます。また、本機を廃棄したり譲渡したりするときに、個人的な情報を本機から消去できます。設定する前に、デジタル放送に切り換えてください。

1 （メニュー）を押す。

2 ↑/↓で「テレビの設定をする」を選んで、決定を押す。

3 ↑/↓で「（デジタル放送設定）」を選んで、決定を2回押す。

4 ↑/↓で「その他設定」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

暗証番号や視聴年齢制限を設定する

「暗証番号設定」を選ぶ。

暗証番号が未設定のとき：1～10までの数字ボタンで4桁の暗証番号を入力できます。暗証番号を間違えたときは←で戻り、入力し直してください。

暗証番号が設定済みのとき：暗証番号を変更できます。1～10までの数字ボタンで変更前の暗証番号を入力してから、新しい暗証番号を入力してください。

「視聴年齢制限設定」を選ぶ。

最初に暗証番号入力画面が表示されます。上の手順で設定した暗証番号を入力してください。

年齢に関係なく視聴を可能にする：視聴年齢付き番組でも暗証番号を入力しないで、見ることができます。

年齢によって視聴を制限する：「年齢設定」に設定した年齢より上の視聴年齢付き番組をご覧になるときに、暗証番号の入力が必要になります。

年齢設定：4才～ 19才で設定できます。
すべての視聴年齢付き番組の視聴を制限するときは、「4才」などの低い年齢に設定してください。

ご注意

- **設定した暗証番号は、忘れないようにしてください。**視聴年齢付き番組を見るときに入力が必要です。
- 本機を譲渡/廃棄するときは安全のため、個人情報を消去してください（☞45ページ）。

ちょっと一言

設定した暗証番号を忘れてしまったときは、「個人情報初期化」を行い、1度消去することで、新しく設定し直せます。その場合は、消去される内容（☞45ページ）はすべて消去されるのでご注意ください。

個人情報を消去する

「個人情報初期化」を選ぶ。

以下のすべての情報が、一括して消去され、お買い上げ時の設定に戻ります。自動的に電源が切れます。

消去される内容

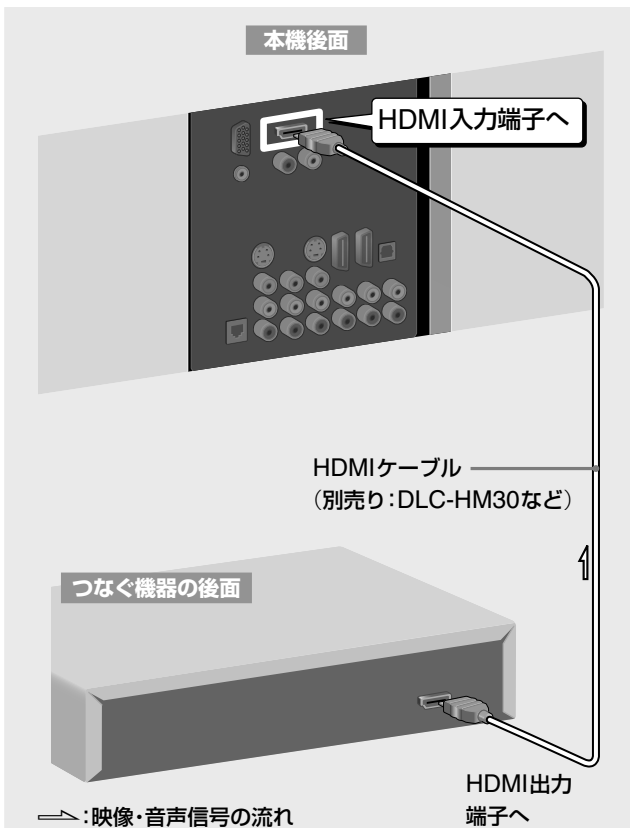
- データ放送で登録した個人情報やポイントなど
- 暗証番号･パスワードなどの登録情報
- ペイパービューなどの履歴情報
- メール
- 登録したブックマーク
- 登録発呼の登録･履歴情報
- 登録したキーワード
- 放送設定の設定内容（地域情報など）
- 接続サーバーの設定
- ネットワーク設定（IPアドレスなど）
- 通信などによる各種証明書
- デジタル放送各種チャンネル設定

録画・再生機器をつなぐ

本機につないだ機器から、本機で映像と音声を再生するための接続です。つなぐ機器の映像出力端子によって接続のしかたが異なります。つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

つなぐ機器にHDMI出力端子がありますか？

いいえ ▶

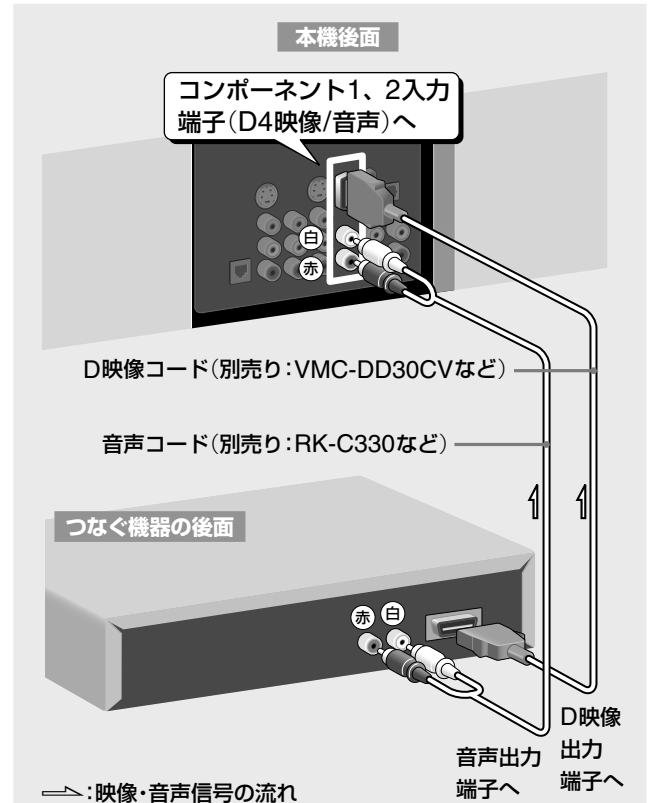
はい

この接続を推奨する映像機器

デジタルハイビジョン対応機器や高画質録画・再生可能機器。

- **DVDプレーヤー**
- **ブルーレイディスクレコーダー（BD）**
- **HDD搭載DVDレコーダーなど**

つなぐ機器にD映像出力端子がありますか？

いいえ ▶

はい

この接続を推奨する映像機器

デジタルハイビジョン対応機器や高画質録画・再生可能機器。

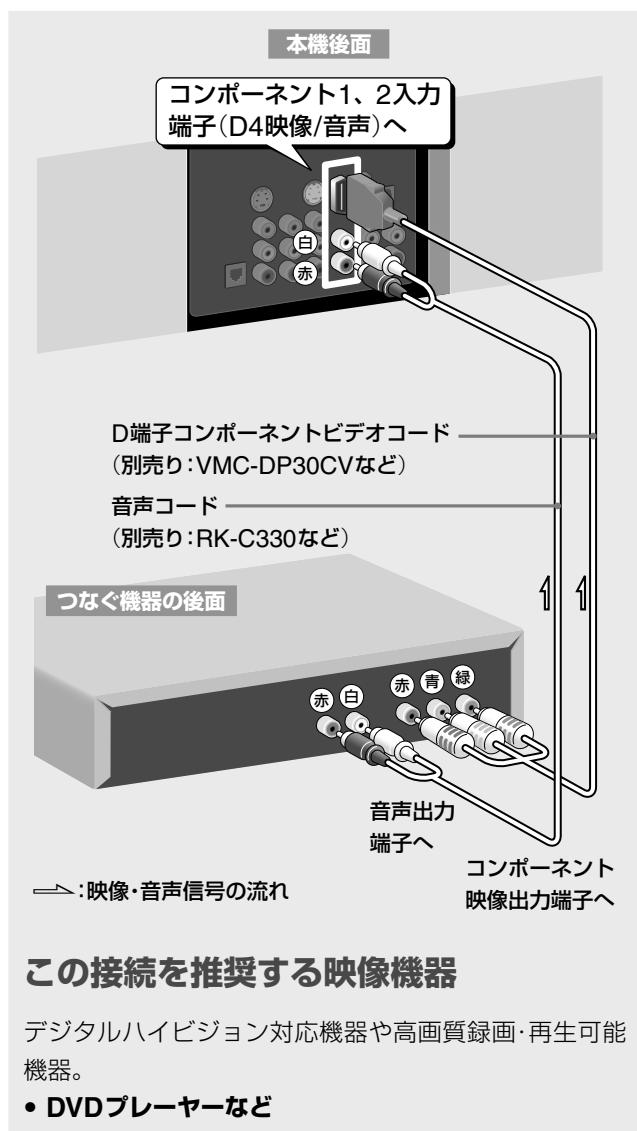
- **ブルーレイディスクレコーダー（BD）**
- **DVDプレーヤーなど**

本機はD4映像入力に対応しています。接続する機器のD映像出力も「D4」に設定してお使いください。接続する機器がD4映像出力に対応していない場合は、Dに続く数字の大きい方に設定してください（例：「D3」と「D1」に対応しているときは「D3」に設定する）。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- HDMI入力端子は、PC入力には対応していません。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定を確認してください。
- DVI端子搭載機器と接続する場合は、アナログ音声入力端子に音声コードを接続してください。
- DVI端子搭載機器と接続する場合は、DVI-HDMI変換用のケーブルをご使用ください。この場合、パソコンとの接続は保証していません。

いいえ

つなぐ機器にコンポーネント映像出力端子がありますか？

つなぐ機器にS映像出力端子/映像出力端子がありますか？

はい

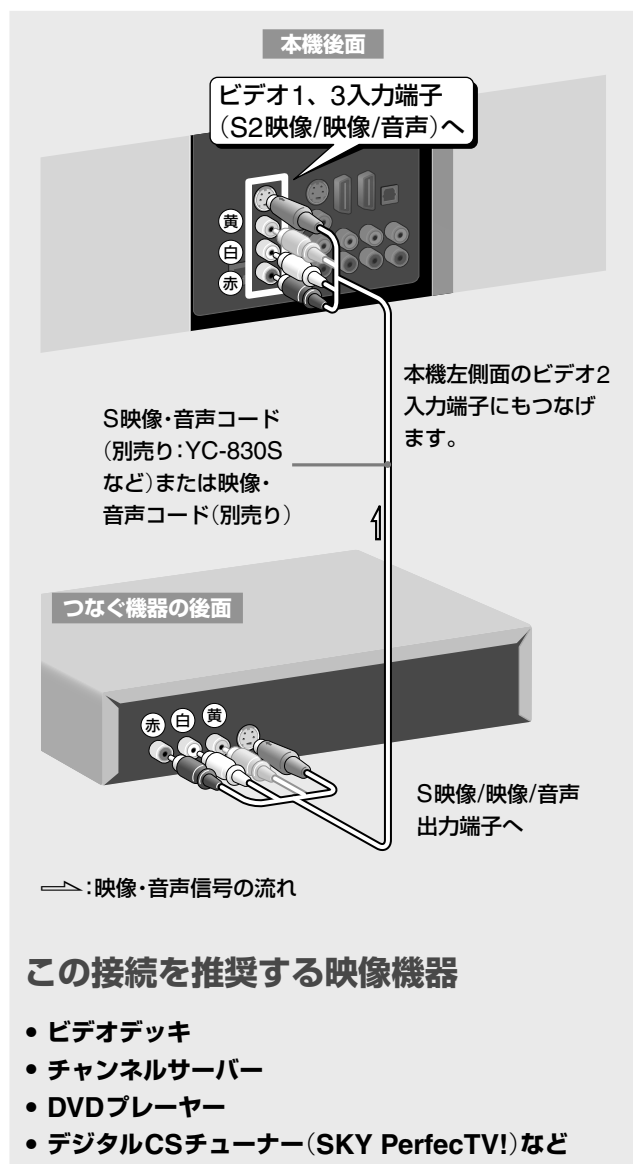
この接続を推奨する映像機器

デジタルハイビジョン対応機器や高画質録画・再生可能機器。

- **DVDプレーヤーなど**

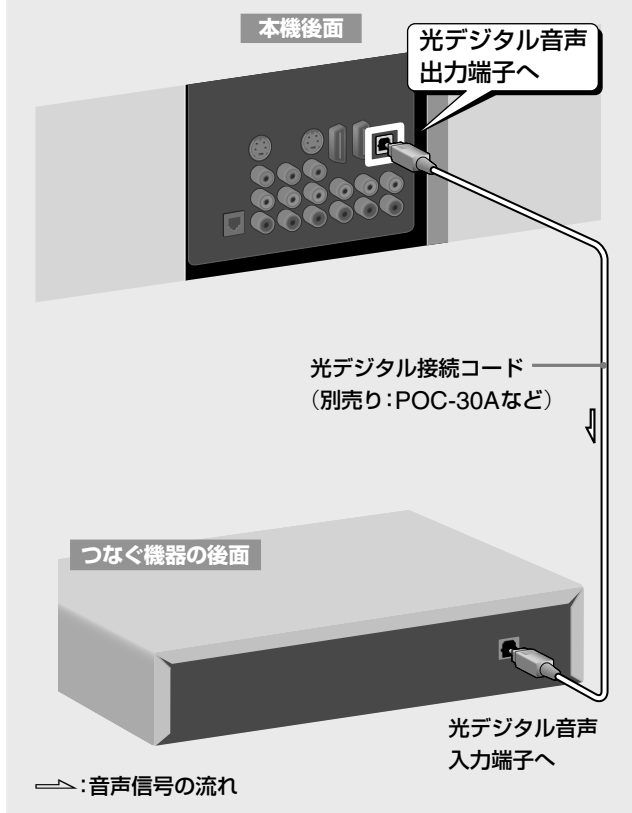
はい

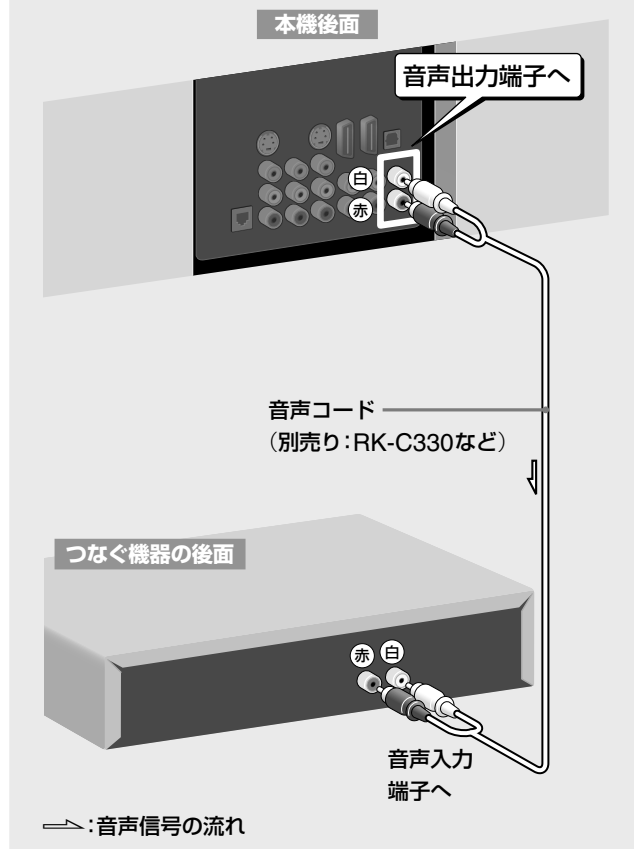
この接続を推奨する映像機器

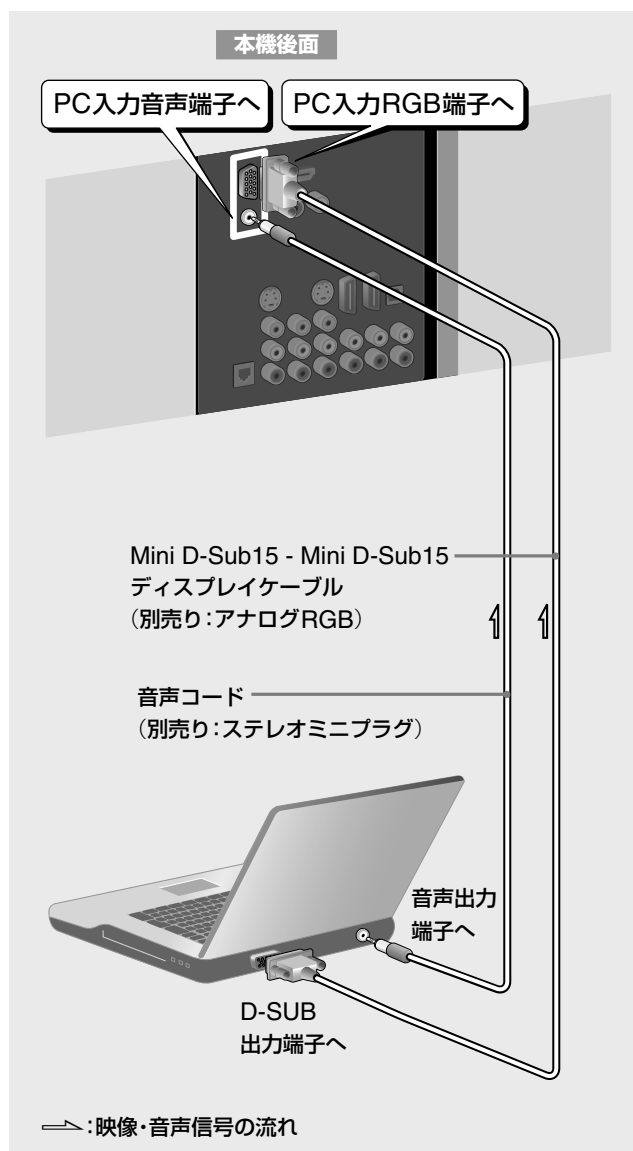
- **ビデオデッキ**
- **チャンネルサーバー**
- **DVDプレーヤー**
- **デジタルCSチューナー（SKY PerfecTV!）など**

オーディオ機器をつなぐ

光デジタル入力対応のオーディオ機器をつなぐとき

光デジタル音声入力端子を持つAVアンプや、**サンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキ**などをつなぎます。

つなぐオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

その他のオーディオ機器（2ch入力対応）をつなぐとき

オーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

パソコンをつなぐ

本機を別売りのディスプレイケーブルでパソコンにつなぐと、本機の大画面にパソコンの画面を映し出すことができます。また、別売りの音声コードをつなぐと、本機のスピーカーでパソコンの音声を楽しめます。

ちょっと一言

- パソコンによっては、対応信号を入力した場合でも、チラツキやノイズなどが出ることがあります。その場合は、フェーズやピッチを調整してください。
- パソコン側で外部出力設定をしてください。詳しくは、パソコンの取扱説明書をご覧ください。
- 音量の調整は、パソコン側でも行ってください。
- 対応信号については、☞「操作･困ったときは編」の「DVDやビデオ、パソコンなどの映像を見る」をご覧ください。

Mini D-Sub15 - Mini D-Sub15 ディスプレイケーブルでつなげないパソコンをお使いのときは

必要に応じて市販のアダプターをお使いください。アダプターは、先にコンピューターに差し込んでから、ディスプレイケーブルにつなぎます。

地上デジタル放送・地域別チャンネル割り当て一覧表

リモコンの❶～⑫(/選局)の数字ボタンに割り当てられる地上デジタルの放送局は下記のとおりです(2005年12月現在は放送を開始していない放送局もあります)。
「準備6:お買い上げ時の初期設定(デジタル放送かんたん設定)をする」(☞28ページ)を行うと、各数字ボタンに放送局が自動的に割り当てられます。引越しや新しく放送局が開設されるなどでチャンネルを割り当て直したいときは、「準備9:地上デジタル放送の設定をする」(☞33ページ)をご覧になり、チャンネルスキャンをやり直してください。また、各都道府県名の欄にない放送局を受信できる場合もあります。このときは数字ボタンに空きがあれば、その放送局を自動的に任意の番号として割り当てます。

都道府県名	放送局名	数字ボタン
北海道(帯広)	NHK総合・帯広	③
	NHK教育・帯広	②
	HBC帯広	①
	STV帯広	⑤
	HTB帯広	⑥
	UHB帯広	⑧
	TVH帯広	⑦
北海道(釧路)	NHK総合・釧路	③
	NHK教育・釧路	②
	HBC釧路	①
	STV釧路	⑤
	HTB釧路	⑥
	UHB釧路	⑧
	TVH釧路	⑦
北海道(北見)	NHK総合・北見	③
	NHK教育・北見	②
	HBC北見	①
	STV北見	⑤
	HTB北見	⑥
	UHB北見	⑧
	TVH北見	⑦
北海道(旭川)	NHK総合・旭川	③
	NHK教育・旭川	②
	HBC旭川	①
	STV旭川	⑤
	HTB旭川	⑥
	UHB旭川	⑧
	TVH旭川	⑦
北海道(札幌)	NHK総合・札幌	③
	NHK教育・札幌	②
	HBC札幌	①
	STV札幌	⑤
	HTB札幌	⑥
	UHB札幌	⑧
	TVH札幌	⑦
北海道(函館)	NHK総合・函館	③
	NHK教育・函館	②
	HBC函館	①
	STV函館	⑤
	HTB函館	⑥
	UHB函館	⑧
	TVH函館	⑦
北海道(室蘭)	NHK総合・室蘭	③
	NHK教育・室蘭	②
	HBC室蘭	①
	STV室蘭	⑤
	HTB室蘭	⑥
	UHB室蘭	⑧
	TVH室蘭	⑦

都道府県名	放送局名	数字ボタン
青森	NHK総合・青森	③
	NHK教育・青森	②
	RAB青森放送	①
	ATV青森テレビ	⑥
	青森朝日放送	⑤
岩手	NHK総合・盛岡	①
	NHK教育・盛岡	②
	IBCテレビ	⑥
	テレビ岩手	④
	めんこいテレビ	⑧
	岩手朝日テレビ	⑤
宮城	NHK総合・仙台	③
	NHK教育・仙台	②
	TBCテレビ	①
	仙台放送	⑧
	ミヤギテレビ	④
	KHB東日本放送	⑤
秋田	NHK総合・秋田	①
	NHK教育・秋田	②
	ABS秋田放送	④
	AKT秋田テレビ	⑧
	AAB秋田朝日放送	⑤
山形	NHK総合・山形	①
	NHK教育・山形	②
	YBC山形放送	④
	YTS山形テレビ	⑤
	テレビユー山形	⑥
	さくらんぼテレビ	⑧
福島	NHK総合・福島	①
	NHK教育・福島	②
	福島テレビ	⑧
	福島中央テレビ	④
	KFB福島放送	⑤
	テレビユー福島	⑥
茨城	NHK総合・水戸	①
	NHK教育・東京	②
	日本テレビ	④
	TBS	⑥
	フジテレビジョン	⑧
	テレビ朝日	⑤
	テレビ東京	⑦
	放送大学	⑫
栃木	NHK総合・東京	①
	NHK教育・東京	②
	日本テレビ	④
	TBS	⑥
	フジテレビジョン	⑧
	テレビ朝日	⑤
	テレビ東京	⑦
	とちぎテレビ	③
	放送大学	⑫

都道府県名	放送局名	数字ボタン
群馬	NHK総合・東京	①
	NHK教育・東京	②
	日本テレビ	④
	TBS	⑥
	フジテレビジョン	⑧
	テレビ朝日	⑤
	テレビ東京	⑦
	群馬テレビ	③
	放送大学	⑫
埼玉	NHK総合・東京	①
	NHK教育・東京	②
	日本テレビ	④
	TBS	⑥
	フジテレビジョン	⑧
	テレビ朝日	⑤
	テレビ東京	⑦
	テレ玉	③
	放送大学	⑫
千葉	NHK総合・東京	①
	NHK教育・東京	②
	日本テレビ	④
	TBS	⑥
	フジテレビジョン	⑧
	テレビ朝日	⑤
	テレビ東京	⑦
	チバテレビ	③
	放送大学	⑫
東京	NHK総合・東京	①
	NHK教育・東京	②
	日本テレビ	④
	TBS	⑥
	フジテレビジョン	⑧
	テレビ朝日	⑤
	テレビ東京	⑦
	東京MXテレビ	⑨
	放送大学	⑫
神奈川	NHK総合・東京	①
	NHK教育・東京	②
	日本テレビ	④
	TBS	⑥
	フジテレビジョン	⑧
	テレビ朝日	⑤
	テレビ東京	⑦
	tvk	③
	放送大学	⑫
新潟	NHK総合・新潟	①
	NHK教育・新潟	②
	BSN	⑥
	NST	⑧
	TeNYテレビ新潟	④
	新潟テレビ21	⑤

都道府県名	放送局名	数字ボタン
富山	NHK総合･富山	③
	NHK教育･富山	②
	KNB北日本放送	①
	BBT富山テレビ	⑧
	チューリップテレビ	⑥
石川	NHK総合･金沢	①
	NHK教育･金沢	②
	テレビ金沢	④
	北陸朝日放送	⑤
	MRO	⑥
	石川テレビ	⑧
福井	NHK総合･福井	①
	NHK教育･福井	②
	FBCテレビ	⑦
	福井テレビ	⑧
山梨	NHK総合･甲府	①
	NHK教育･甲府	②
	YBS山梨放送	④
	UTY	⑥
長野	NHK総合･長野	①
	NHK教育･長野	②
	テレビ信州	④
	abn長野朝日放送	⑤
	SBC信越放送	⑥
	NBS長野放送	⑧
静岡	NHK総合･静岡	①
	NHK教育･静岡	②
	SBS	⑥
	テレビ静岡	⑧
	静岡第一テレビ	④
	静岡朝日テレビ	⑤
岐阜	NHK総合･岐阜	③
	NHK教育･名古屋	②
	東海テレビ	①
	CBC	⑤
	メ～テレ	⑥
	中京テレビ	④
	岐阜テレビ	⑧
愛知	NHK総合･名古屋	③
	NHK教育･名古屋	②
	東海テレビ	①
	CBC	⑤
	メ～テレ	⑥
	中京テレビ	④
	テレビ愛知	⑩
三重	NHK総合･津	③
	NHK教育･名古屋	②
	東海テレビ	①
	CBC	⑤
	メ～テレ	⑥
	中京テレビ	④
	三重テレビ	⑦
滋賀	NHK総合･大津	①
	NHK教育･大阪	②
	MBS毎日放送	④
	ABCテレビ	⑥
	関西テレビ	⑧
	よみうりテレビ	⑩
	BBCびわ湖放送	③
京都	NHK総合･京都	①
	NHK教育･大阪	②
	MBS毎日放送	④
	ABCテレビ	⑥
	関西テレビ	⑧
	よみうりテレビ	⑩
	KBS京都	⑤

都道府県名	放送局名	数字ボタン
大阪	NHK総合･大阪	①
	NHK教育･大阪	②
	MBS毎日放送	④
	ABCテレビ	⑥
	関西テレビ	⑧
	よみうりテレビ	⑩
	テレビ大阪	⑦
兵庫	NHK総合･神戸	①
	NHK教育･大阪	②
	MBS毎日放送	④
	ABCテレビ	⑥
	関西テレビ	⑧
	よみうりテレビ	⑩
	サンテレビ	③
奈良	NHK総合･奈良	①
	NHK教育･大阪	②
	MBS毎日放送	④
	ABCテレビ	⑥
	関西テレビ	⑧
	よみうりテレビ	⑩
	奈良テレビ	⑨
和歌山	NHK総合･和歌山	①
	NHK教育･大阪	②
	MBS毎日放送	④
	ABCテレビ	⑥
	関西テレビ	⑧
	よみうりテレビ	⑩
	テレビ和歌山	⑤
鳥取	NHK総合･鳥取	③
	NHK教育･鳥取	②
	山陰中央テレビ	⑧
	BSSテレビ	⑥
	日本海テレビ	①
島根	NHK総合･松江	③
	NHK教育･松江	②
	山陰中央テレビ	⑧
	BSSテレビ	⑥
	日本海テレビ	①
岡山	NHK総合･岡山	①
	NHK教育･岡山	②
	RNC西日本テレビ	④
	KSB瀬戸内海放送	⑤
	RSKテレビ	⑥
	テレビせとうち	⑦
	OHKテレビ	⑧
広島	NHK総合･広島	①
	NHK教育･広島	②
	RCCテレビ	③
	広島テレビ	④
	広島ホームテレビ	⑤
	TSS	⑧
山口	NHK総合･山口	①
	NHK教育･山口	②
	KRY山口放送	④
	ｔｙｓテレビ山口	③
	ｙａｂ山口朝日	⑤
徳島	NHK総合･徳島	③
	NHK教育･徳島	②
	四国放送	①
香川	NHK総合･高松	①
	NHK教育･高松	②
	RNC西日本テレビ	④
	KSB瀬戸内海放送	⑤
	RSKテレビ	⑥
	テレビせとうち	⑦
	OHKテレビ	⑧

都道府県名	放送局名	数字ボタン
愛媛	NHK総合･松山	①
	NHK教育･松山	②
	南海放送	④
	愛媛朝日	⑤
	あいテレビ	⑥
	テレビ愛媛	⑧
高知	NHK総合･高知	①
	NHK教育･高知	②
	高知放送	④
	テレビ高知	⑥
	さんさんテレビ	⑧
福岡	NHK総合･福岡 NHK総合･北九州	③
	NHK教育･福岡 NHK教育･北九州	②
	KBC九州朝日放送	①
	RKB毎日放送	④
	FBS福岡放送	⑤
	TVQ九州放送	⑦
	TNCテレビ西日本	⑧
佐賀	NHK総合･佐賀	①
	NHK教育･佐賀	②
	STSサガテレビ	③
長崎	NHK総合･長崎	①
	NHK教育･長崎	②
	NBC長崎放送	③
	KTNテレビ長崎	⑧
	NCC長崎文化放送	⑤
	NIB長崎国際テレビ	④
熊本	NHK総合･熊本	①
	NHK教育･熊本	②
	RKK熊本放送	③
	TKUテレビ熊本	⑧
	KKTくまもと県民	④
	KAB熊本朝日放送	⑤
大分	NHK総合･大分	①
	NHK教育･大分	②
	OBS大分放送	③
	TOSテレビ大分	④
	OAB大分朝日放送	⑤
宮崎	NHK総合･宮崎	①
	NHK教育･宮崎	②
	MRT宮崎放送	⑥
	UMKテレビ宮崎	③
鹿児島	NHK総合･鹿児島	③
	NHK教育･鹿児島	②
	MBC南日本放送	①
	KTS鹿児島テレビ	⑧
	KKB鹿児島放送	⑤
	KYT鹿児島読売TV	④
沖縄	NHK総合･那覇	①
	NHK教育･那覇	②
	RBCテレビ	③
	QAB琉球朝日放送	⑤
	沖縄テレビ(OTV)	⑧

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
  ただし、液晶パネルは2年間。
- 本機のメモリーに保存されたデータは、保証の対象外です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

☞「操作･困ったときは編」の「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
BSデジタル、110度CSデジタルの放送局との受信契約や番組に関しては、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターや衛星サービス会社、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）に問い合わせてください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名：KDL-20S2000　KDL-32S2000
KDL-23S2000　KDL-40S2000
KDL-26S2000　KDL-46S2000

型名について詳しくは、☞「操作･困ったときは編」の「修理に出す前に」をご覧ください。

故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 TEL.
お近くのサービスステーション TEL.

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

受信方式　NTSC方式
地上デジタル放送方式
BSデジタル放送方式
110度CSデジタル放送方式

受信チャンネル　VHF 1 ～ 12チャンネル
UHF 13 ～ 62チャンネル
CATV（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）
地上アナログ：C13 ～ C63
地上デジタル･BSデジタル･110度CSデジタル（テレビ、ラジオ、独立データ）の各チャンネル

BSデジタル･110度CSデジタル対応周波数
1022 ～ 2072MHz

BSデジタル･110度CSデジタル対応ローカル周波数
10.678GHz

使用スピーカー　KDL-20S2000/KDL-23S2000：
フルレンジ 4×10cm（2）
KDL-26S2000/KDL-32S2000：
フルレンジ 4.2×15cm（2）
KDL-40S2000：
フルレンジ 5.5×15cm（2）
KDL-46S2000：
フルレンジ 7×13cm（2）

音声出力　実用最大出力：
内蔵スピーカー
KDL-20S2000/KDL-23S2000：
5W＋5W（JEITA）
KDL-26S2000/KDL-32S2000/
KDL-40S2000/KDL-46S2000：
10W＋10W（JEITA）
負荷インピーダンス 8Ω

入出力端子

アンテナ端子　VHF/UHF、BS/110度CS IF 75Ω
F型コネクター
（コンバーター用電源出力、DC15/11V最大4W、芯線側＋、オート/入/切、メニュー切り換え）

ビデオ1 ～ 3入力端子
S2映像：
4ピンミニDIN
Y：1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C：0.286Vp-p
（バースト信号）、75Ω
映像：ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上

コンポーネント1、2入力端子
D4映像：
D端子
Y：1Vp-p（0.3V負同期付き）
P_B/P_R、C_B/C_R：±350mVp-p、入力インピーダンス 75Ω
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上

HDMI入力端子　映像：デジタルRGB/
Y C_B（P_B） C_R（P_R）
音声：PCM
（32kHz、44.1kHz、48kHz）
（アナログ）音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス 47kΩ以上

デジタル放送/ビデオ出力端子
S2映像：
4ピンミニDIN
Y：1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C：0.286Vp-p
（バースト信号）、75Ω
映像：ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス4.7kΩ以下
テレビ放送の音声の100％変調時、またはBSデジタル放送の最大出力 －12dB時の数値です。

音声出力端子　2ch出力、ピンジャック
最大出力レベル 2.0Vrms、
出力インピーダンス 5kΩ

ヘッドホン端子　ステレオミニジャック、
負荷インピーダンス 16Ω以上

光デジタル音声出力端子
角型端子、
AAC/PCM対応

電話回線端子　モジュラージャック、
直流抵抗値 245Ω

LAN（10/100）端子　10 BASE-T/100 BASE-TXコネクター
（ネットワークの使用環境により、接続速度に差が生じることがあります。本機は10 BASE-T/100 BASE-TXの通信速度や通信品質を保証するものではありません。）

PC映像入力端子　D-SUB15ピン
RGB信号：0.7Vp-p、75Ω
同期信号：TTLレベル、2.2kΩ

PC音声入力端子　ステレオミニジャック 500mVrms、
インピーダンス 47kΩ以上

次のページにつづく ⇨

主な仕様（つづき）

電源部･その他

モデム通信速度　2400bps

消費電力
KDL-20S2000：82W
KDL-23S2000：97W
KDL-26S2000：109W
KDL-32S2000：140W
KDL-40S2000：198W
KDL-46S2000：238W

消費電力（リモコン待機時）：
KDL-20S2000：0.5W
KDL-23S2000/KDL-26S2000/KDL-32S2000/
KDL-40S2000/KDL-46S2000：0.055W

年間消費電力量
区分名 BEE
KDL-20S2000：100kWh/年（スタンダード時）
KDL-23S2000：114kWh/年（スタンダード時）
KDL-26S2000：120kWh/年（スタンダード時）
KDL-32S2000：152kWh/年（スタンダード時）
KDL-40S2000：199kWh/年（スタンダード時）
KDL-46S2000：252kWh/年（スタンダード時）

パネル解像度　1366×768×3（RGB）
（ドット：水平×垂直）

有効画面サイズ
KDL-20S2000：44.5･25.0･51.1cm
KDL-23S2000：50.9･28.6･58.3cm
KDL-26S2000：57.6･32.4･66.1cm
KDL-32S2000：69.8･39.2･80.0cm
KDL-40S2000：88.5･49.8･101.5cm
KDL-46S2000：101.8･57.3･116.8cm
（幅･高さ･対角）

視野角　178度（JEITA規格準拠 コントラスト比10:1）

最大外形寸法（最大突起部分を除く）
KDL-20S2000：49.9×40.6×20.9cm
KDL-23S2000：56.6×44.7×20.9cm
KDL-26S2000：65.8×51.6×21.9cm
KDL-32S2000：79.2×59.3×21.9cm
KDL-40S2000：98.8×71.6×33.4cm
KDL-46S2000：112.0×80.5×33.4cm
（幅×高さ×奥行き）

質量
KDL-20S2000：7.9kg
KDL-23S2000：10.1kg
KDL-26S2000：13.0kg
KDL-32S2000：17.0kg
KDL-40S2000：27.0kg
KDL-46S2000：34.0kg

電源　AC100V、50/60Hz

付属品　「付属品を確かめる」（☞16ページ）をご覧ください。

別売りアクセサリー

2005年12月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

壁掛けユニット　SU-WL31（KDL-23S2000/KDL-26S2000/KDL-32S2000）
SU-WL51（KDL-40S2000/KDL-46S2000）

接続ケーブルなど

衛星アンテナなど

区分名と年間消費電力量について

- 区分名
「エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）」では、テレビに使用される表示素子、アスペクト比、画素数、受信可能な放送形態及び付加価値の有無等に基づいた区分を行っています。その区分名称を言います。
- 年間消費電力量
省エネ法に基づいて、型サイズや受信機の種類別の算定式により、一般家庭での平均視聴時間（4.5時間）を基準に算出した、一年間に使用する電力量です。

- 「JIS C 61000-3-2適合品」です。
JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部：限度値-高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計･製造した製品です。
- この製品はBBE Sound, Inc. からの実施権に基づき製造されています。
この製品は米国BBE Sound, Inc. の所有する特許USP5510752及び5736897を使用しています。
BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。
- TruSurround XT、SRSと(●)記号はSRS Labs, Inc.の商標です。
TruSurround XT技術はSRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。
- HDMI、HDMI、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または、登録商標です。
- 本機は電気通信事業法の規定に基づく技術基準適合認定モデルです。

機器名	認証番号
KDL-20S2000	A05-0233005
KDL-23S2000	A05-0232005
KDL-26S2000	A05-0231005
KDL-32S2000	A05-0230005
KDL-40S2000	A05-0229005
KDL-46S2000	A06-0009005

- このテレビは日本国内用です。電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語集

五十音順

ア行

アンテナレベル(☞33、36ページ)

アンテナから入ってくる電波の強さです。天候や気温、時間帯、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

カ行

ケーブルテレビ(CATV)(☞24、29、31、33ページ)

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。地上アナログのテレビ番組や地上デジタル、BSアナログに加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

ゴースト(☞32ページ)

放送局からの電波が、テレビアンテナに届く前に、建物や地形の影響で妨害波となり、時間がズレて二重、三重に受信されることです。そのため、正しく送られてきた画像に妨害波の画像が重なって表われ、見にくい画面となります。

タ行

地上デジタル放送

2003年12月に一部地域で放送が開始された、地上波によるデジタル放送です。UHFの周波数帯域を利用して送信されます。

デジタル信号で大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質･高音質で楽しめます。デジタルハイビジョン信号HDによるテレビ放送や、また文字や画像などのデータ放送などがあります。

デジタルCS放送(☞24ページ)

110度CSデジタルではなく、SKY PerfecTV!のことです。

通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することで、大量の情報を扱えます。これにより、多チャンネルの放送を高画質･高音質で楽しめます。

デジタルハイビジョン信号HD

デジタル放送の画像方式で、1125iと750pがあり、大画面になっても走査線(テレビ画面を水平に走る線)が目立たなく、35mm映画なみの臨場感あふれる高精細画質を楽しめます。

データ放送(☞42ページ)

放送波で情報を伝送し、ニュースや気象情報などを提供するサービス。双方向通信を使ったショッピングや視聴者参加番組などのデータ放送もある。

データのみを専門に扱っている独立データと、デジタル放送のテレビやラジオの番組に連動して見ることができる連動データがあります。

ハ行

光デジタル音声出力(☞48ページ)

音声信号をデジタル形式のまま出力できるため、劣化がなく高品質の音声を楽しめます。

標準テレビ信号SD

デジタル放送の画像方式で、525pと525iがあり、525iは地上アナログと同等の画質です。

ラ行

ラジオ放送

画像や連動したデータを楽しめるラジオ放送と、音声のみのラジオ放送があり、番組によっては音楽CD並みの高音質が楽しめます。

数字･アルファベット順

110度CS(CS1、CS2)デジタル放送

2002年3月から始まった、110度デジタル衛星N-SAT-110によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。デジタル信号で大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質･高音質で楽しめます。テレビ放送に加え、文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質なラジオ放送などがあります。

5.1ch(チャンネル)

左フロント、右フロント、センター、左リア、右リアの5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンド方式です。

本機の光デジタル音声出力端子に5.1ch対応のオーディオ機器をつなぐと、本機が受信した5.1chサラウンドの音声を楽しめます。

AAC

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。「アドバンスド･オーディオ･コーディング(Advanced Audio Coding)」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現します。

B-CASカード(デジタル放送用ICカード)(☞20ページ)

プラスチック･カードに集積回路を埋め込んだものです。チャンネルの契約、購入内容などの情報がB-CASカードに記憶されます。記憶された情報は、電話回線を通じて放送局に送信されます。

BSデジタル放送

2000年12月から始まった、放送衛星(BS)によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。デジタル信号で大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質･高音質で楽しめます。デジタルハイビジョン信号HDによるテレビ放送や、また文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質なラジオ放送などがあります。

次のページにつづく ⇨

用語集(つづき)

D端子(☞46、59ページ)

デジタルCS放送やDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。
D端子には対応する信号フォーマットによって、次の種類があります。
本機にはD4入力端子が付いています。

- D1端子: 525i(480i)の信号に対応
- D2端子: 525i(480i)と525p(480p)の信号に対応
- D3端子: 525i(480i)と 525p(480p)、1125i(1080i)の信号に対応
- D4端子: 525i(480i)と525p(480p)、1125i(1080i)、750p(720p)の信号に対応

iはインターレース、pはプログレッシブの略です。
( )内は有効走査線数で数えたときの別称です。

HDMI(☞46、58ページ)

テレビ接続機器のデジタル映像·音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子(DVDプレーヤー、AVアンプなど)とテレビを1本のケーブルで接続することで高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。
対応している映像信号:
525i (480i)、525p (480p)、1125i (1080i)、750p (720p)
対応している音声信号:
リニアPCM 32kHz、44.1kHz、48kHz

ID-1方式(ビデオID-1システム)(☞59、60ページ)

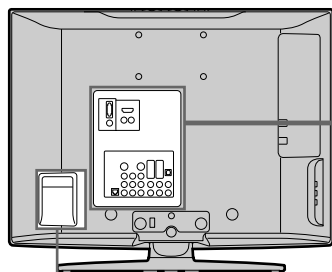
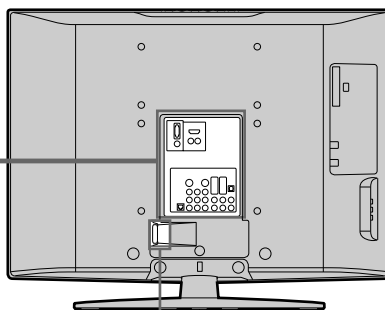
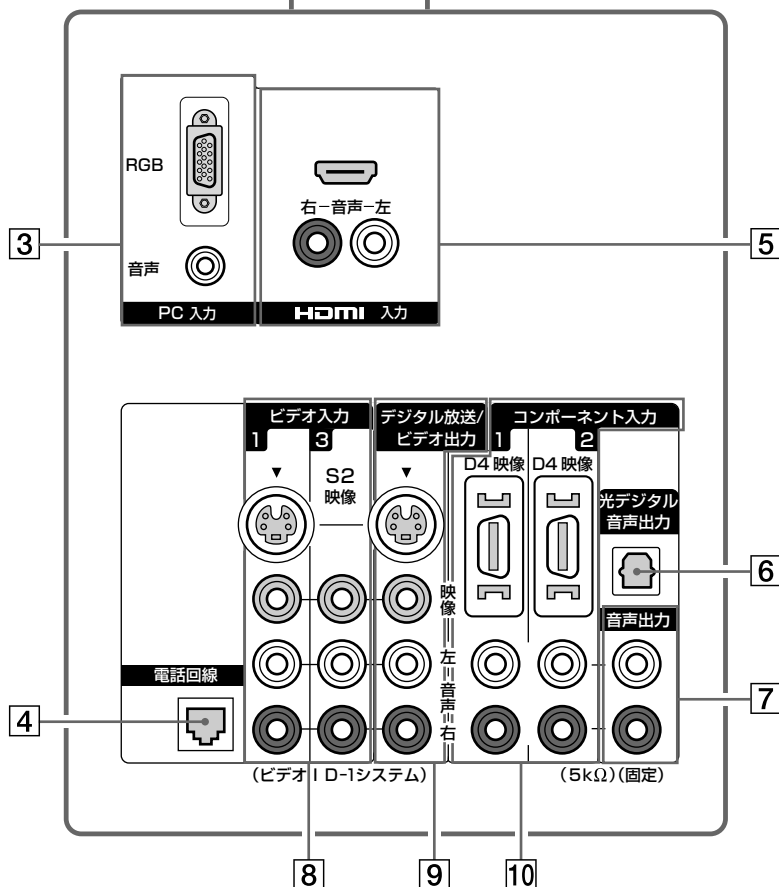
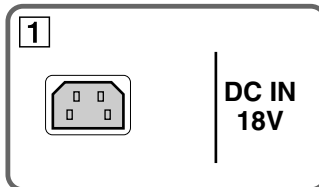
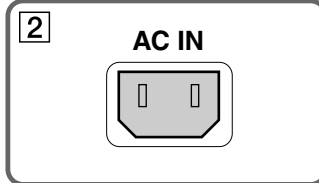
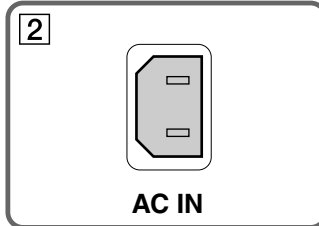
ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比(16:9、4:3またはレターボックス)の情報を記録するシステムの名前です。本機はID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオなどを、本機のビデオ1～3入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式です。「パルス·コード·モジュレーション(Pulse Code Modulation)」の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

S2映像端子(S2方式)(☞47、59、60ページ)

S映像のC端子へ直流電圧を重畳することにより、画面の横縦比(16:9または4:3)の情報を記録するシステムの名前です。
縦長に圧縮された画像は「フル」モードに、レターボックスの映像は「ズーム」モードに自動的に戻す識別制御記号が入っています。本機はS2方式に対応しています。
S2映像出力端子が付いたビデオカメラなどを、本機のS2映像入力端子につなぐと、S2方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

接続端子の名前とはたらき

その他

☞のページに詳しい説明があります。

1 電源DC IN18V端子（☞27ページ）（KDL-20S2000のみ）

付属のACパワーアダプターをつなぎます。

2 電源AC IN100V端子（☞27ページ）

付属の電源コードをつなぎます。

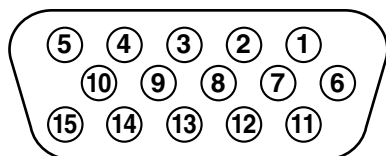
次のページにつづく ⇨

接続端子の名前とはたらき（つづき）

3 PC入力端子（☞49ページ）

RGB入力端子
別売りのMini D-Sub15 - Mini D-Sub15ディスプレイケーブル（アナログRGB）を使って、パソコンのD-SUB出力端子につなぎます。必要に応じて市販のアダプターをお使いください。

音声入力端子
別売りの音声コード（ステレオミニプラグ）を使って、パソコンの音声出力端子につなぎます。

RGB端子ピン配列

ピン番号	入力信号名
1	Rビデオ信号入力
2	Gビデオ信号入力
3	Bビデオ信号入力
4	グランド
5	グランド
6	グランド
7	グランド
8	グランド
9	DDC 5V 入力
10	グランド
11	グランド
12	DDCデータ
13	水平同期信号
14	垂直同期信号
15	DDCクロック

4 電話回線端子（☞25ページ）

付属のモジュラーテレホンコードカプラーを使って電話コンセントにつなぎます。また、ISDN回線をお使いのときは、ターミナルアダプターのアナログポートにつなぎます。ADSL回線をお使いのときは、スプリッターと付属のモジュラーテレホンコードカプラーを使ってつなぎます。

5 HDMI入力端子（☞46ページ）

HDMIケーブルを使ってHDMI出力端子につなぎます。
デジタル映像･音声信号を入力します。
なおDVI端子搭載機器ともつなげます。
DVI-HDMI変換用のケーブルを使ってDVI映像出力端子につなぎます。
対応している映像信号:525i（480i）、525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）
対応している音声信号:リニアPCM 32kHz、44.1kHz、48kHz

アナログ音声入力端子
DVI端子搭載機器のアナログ音声出力端子につなぎます。

6 光デジタル音声出力端子（☞48ページ）

AVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどの、光デジタル音声入力端子につなぎます。
デジタル放送のデジタル音声が出力されます。
また、地上アナログやビデオ機器などからのアナログ音声などはPCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

ご注意

- HDMIおよびDVI端子搭載機器と接続できますが、一部の機器では映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります（5）。
- DVI端子搭載機器と接続する場合は、アナログ音声入力端子に音声コードを接続してください（5）。
- DVI端子搭載機器と接続する場合は、DVI-HDMI変換用のケーブルをご使用ください。この場合、パソコンとの接続は保証していません（5）。
- PC入力には対応していません（5）。

7 音声出力(5kΩ)端子(左/右)(☞48ページ)

オーディオ機器の音声入力端子につなぎます。

選んでいるチャンネルや入力の音声が出力されます。

8 ビデオ1、3入力端子(S2映像/映像/音声)(ビデオID-1システム)(☞47ページ)

ビデオやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

9 デジタル放送/ビデオ出力端子(S2映像/映像/音声)(ビデオID-1システム)

ビデオなどのビデオ入力端子につなぎます。
地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル、ビデオ1～3入力*の信号が出力されます。

* ただし、ビデオ1入力の信号については、メニューで「ビデオ出力設定」を「ビデオ1あり」に設定してください。

  メニューから「テレビの設定をする」→「(各種設定)」→「ビデオ出力設定」→「ビデオ1あり」の順に選ぶ。

本機の映像をつないだ機器で録画するときのご注意

- 本機では電源が入っているときのみ、信号が出力されます。そのため、本機の電源を切るとつないだ機器側では何も録画されません。
- 本機からは、録画予約の設定はできません。
- 見ている映像を録画するには、つないだ機器側で録画設定をしてください。
- 見ている映像を切り換えれば、録画する映像も切り換わります。
- デジタル放送のラジオやデータの音声は記録できますが、画像は正しく記録されません。

10 コンポーネント1、2入力端子(D4映像/音声)(☞46ページ)

D4映像入力端子
デジタルCSチューナーやビデオ機器などのD映像出力端子につなぎます。

音声入力端子
デジタルCSチューナーやビデオ機器などの音声出力端子につなぎます。

D端子について
デジタル放送には次のような信号フォーマットがあります。

信号フォーマット	走査線数	有効走査線数
525i(480i)	525本	480本
525p(480p)	525本	480本
1125i(1080i)	1125本	1080本
750p(720p)	750本	720本

iはインターレース:飛び越し走査、pはプログレッシブ:順次走査の略です。
( )内は有効走査線数で数えたときの別称です。

デジタル放送の信号フォーマットに対応するD端子の種類は次のようになっています。

D端子の種類とその対応信号フォーマット

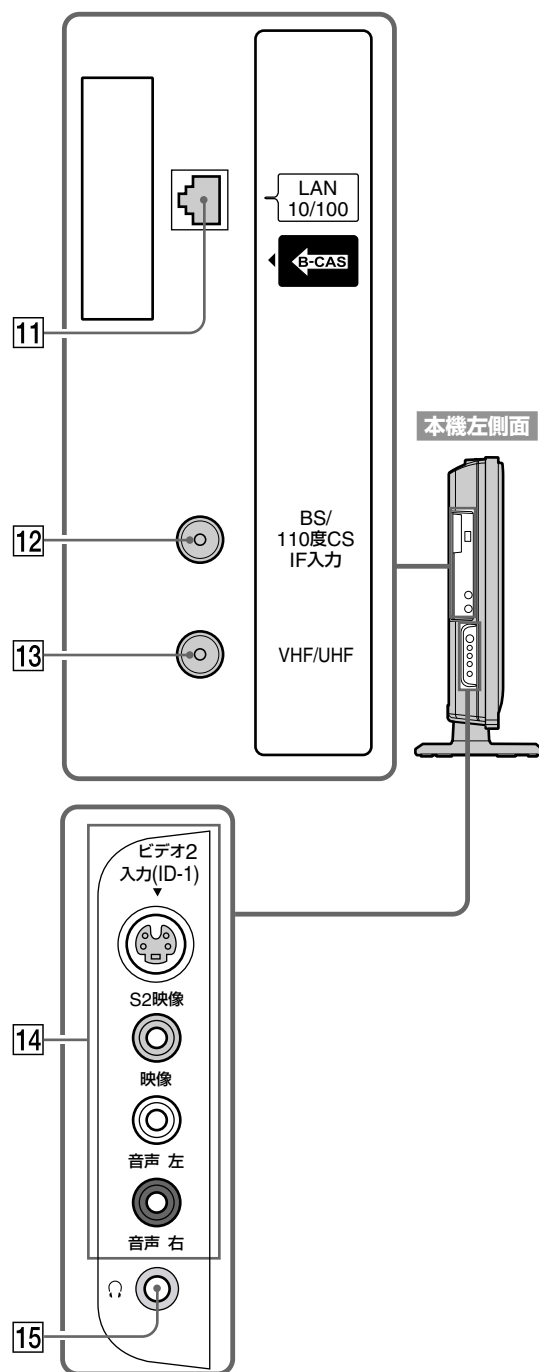
D端子の種類	525i	525p	1125i	750p
D1端子	○	×	×	×
D2端子	○	○	×	×
D3端子	○	○	○	×
D4端子	○	○	○	○

その他

次のページにつづく ⇨

ご注意

- コンポーネント入力端子、HDMI入力端子につないだ機器の映像·音声信号は出力されません(9)。
- 字幕放送の字幕は出力されません(9)。
- デジタル放送のラジオやデータの音声は出力できますが、画像は正しく出力されません(9)。
- S2映像出力端子からは、デジタル放送の映像とビデオ1、2入力のS2映像入力端子につないだ機器の映像のみが出力されます(9)。

接続端子の名前とはたらき（つづき）

☞のページに詳しい説明があります。

11 **LAN 10/100端子（☞26ページ）**
別売りのネットワーク（LAN）ケーブルを使って、モデムやルーターにつなぎます。

12 **BS/110度CS IF入力端子（☞21、23ページ）**
衛星アンテナからの同軸ケーブルをつなぎます。衛星アンテナ用の電源を供給するため、DC15/11Vの直流電圧が出ています。

ご注意

VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルは絶対につながないでください。

13 **VHF/UHFアンテナ端子（☞21ページ）**
VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

14 **ビデオ2入力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞47ページ）**
テレビゲームやビデオカメラレコーダーなどのビデオ出力端子につなぎます。

15 **ヘッドホン端子**
ヘッドホンをつなぎます。

索引（設置・接続編）

索引では、メニューの項目を
［XX］のようにあらわします。

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

数字･アルファベット順

数字

アルファベット

その他